

Shimizumachi Site

清水町遺跡

—八代公共職業安定所建て替えに係る埋蔵文化財発掘調査報告—

清水町遺跡

熊本県文化財調査報告
第324集

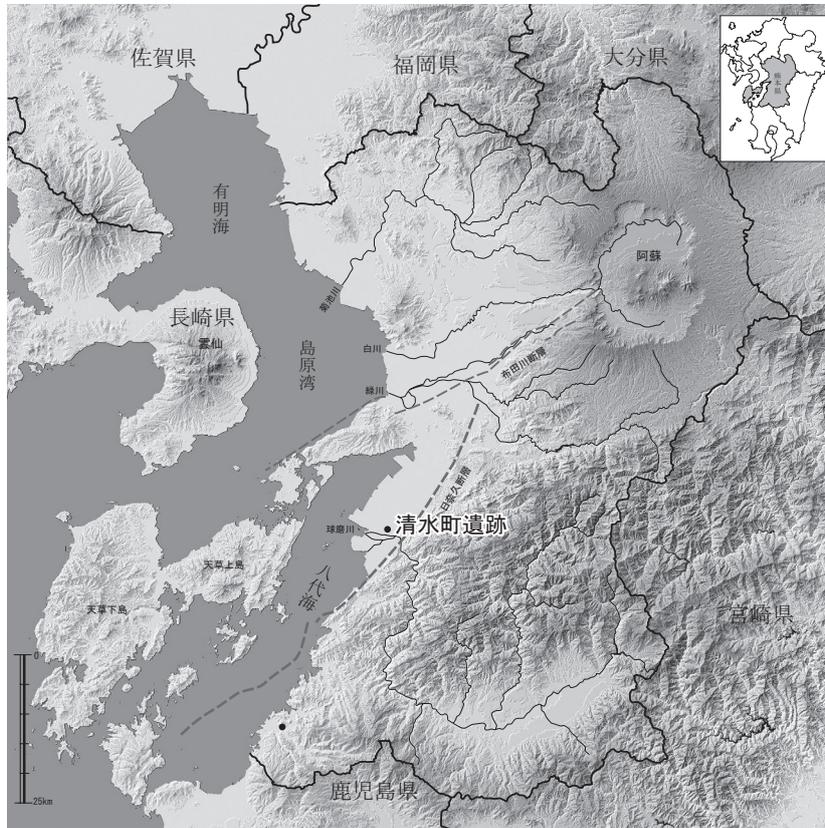
2017
熊本県教育委員会

発行者：熊本県教育委員会
所属：教育総務局文化課
発行年度：平成28年度

2017
熊本県教育委員会

清水町遺跡

—八代公共職業安定所建替えに係る埋蔵文化財発掘調査報告—



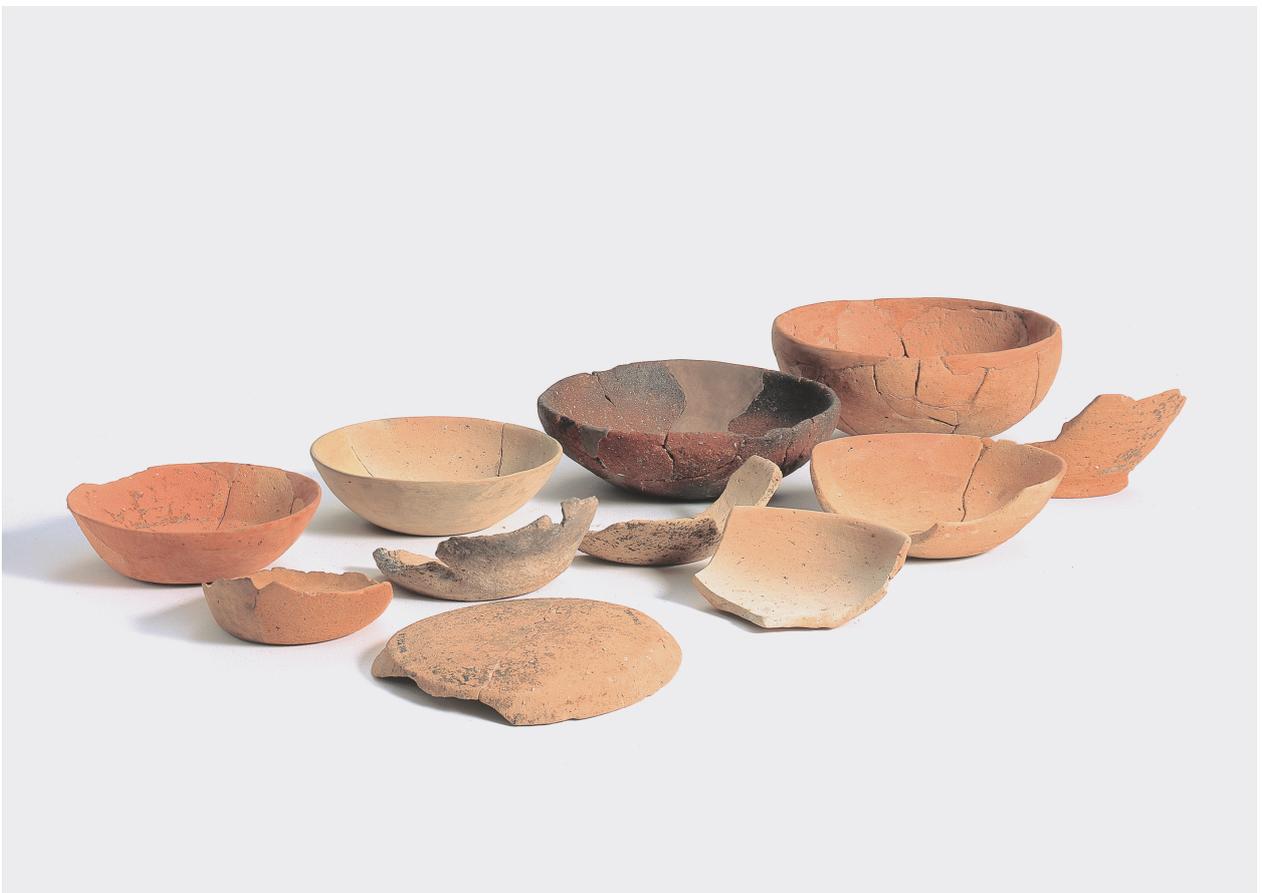
2017

熊本県教育委員会



遺跡の遠景（上）

調査区完掘状況（下）



溝SD1出土遺物（上）
調査区出土遺物（下）

序 文

熊本県教育委員会は、八代公共職業安定所建て替え工事に伴い、建設予定地において埋蔵文化財の調査を実施してまいりました。

調査の結果、土師器、須恵器、土錘等の古代の遺物を確認することができました。この成果は、当時の人々の生活様式の一端を知るうえで大切な資料となると考えております。

今回の報告が、過去の調査成果と併せて今後の調査、研究に生かされることはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として学校教育や生涯学習などに幅広く活用されることを切に希望します。

本調査を実施するにあたり、ご理解、ご協力をいただきました国土交通省九州地方整備局熊本営繕事務所、八代市教育委員会をはじめ、関係各位に対し心より感謝申し上げます。

平成29年3月31日

熊本県教育長 宮尾千加子

例 言

- 1 本書は、国土交通省の八代公共職業安定所建て替え事業に伴い記録保存を目的として実施した熊本県八代市清水町に所在する清水町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 清水町遺跡の発掘調査は、熊本県教育委員会が調査主体となり、教育総務局文化課が担当した。
- 3 現地での遺構実測及び写真撮影は調査担当者で行った。
- 4 遺物の実測、製図及びデジタルトレース業務は、(株)有明測量開発社に委託した。
- 5 遺物の写真撮影は、赤星和宏、亀田学が行った。唐木ひとみ、築出直美がそれを補助した。
- 6 発掘調査に係る整理は、熊本県文化財資料室(熊本市南区城南町沈目1667)で実施した。なお、調査記録及び出土遺物は、熊本県文化財資料室で保管している。
- 7 本書の執筆は、赤星和宏が担当した。

清水町遺跡

—八代公共職業安定所建て替えに係る埋蔵文化財発掘調査報告—

巻頭図版

序文

例言

本文目次

第1章 調査に至る経緯	1
1 経緯	1
2 調査組織	1
第2章 調査	3
1 調査地域	3
(1) 遺跡の位置	3
(2) 周辺の概要（歴史的環境）	3
2 調査の方法	3
(1) グリッド法	3
(2) 分層法	6
(3) その他	6
3 清水町遺跡調査経過	7
第3章 調査の成果	9
1 遺構	9
2 遺物	11
第4章 総括	27
1 検出遺構について	27
2 出土遺物について	27
3 清水町遺跡の性格について	27

写真図版

報告書抄録

挿図目次 (Fig)

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| Fig.1 清水町遺跡周辺遺跡地図 (S=1/25000) | Fig.7 調査区出土遺物実測図 |
| Fig.2 調査区基準点及びグリッド設定図 (S=1/300) | Fig.8 調査区出土遺物実測図 |
| Fig.3 基本層序図 | Fig.9 調査区出土遺物実測図 |
| Fig.4 清水町遺跡遺構配置図 | Fig.10 調査区出土遺物実測図 |
| Fig.5 溝 SD1 平面図・断面図 | Fig.11 調査区出土遺物実測図 |
| Fig.6 溝 SD1 出土遺物実測図 | Fig.12 調査区出土遺物実測図 |

表目次 (Tab)

- | |
|--------------------|
| Tab.1 周辺遺跡地名表 |
| Tab.2 調査区内基準点測量成果表 |
| Tab.3 遺物観察表 |
| Tab.4 遺物観察表 |
| Tab.5 遺物観察表 |
| Tab.6 遺物観察表 |
| Tab.7 遺物観察表 |

写真目次 (PL)

- | | |
|--|--|
| PL.1 遺跡の遠景 (上)
調査区完掘状況 (下) | PL.4 1. 溝 SD1 出土遺物
2. 調査区出土遺物 |
| PL.2 溝 SD1 出土遺物 (上)
調査区出土遺物 (下) | PL.5 調査区出土遺物 |
| PL.3 1. 調査区西壁断面
2. 56Grid 遺物出土状況
3. 2層完掘状況 東より
4. 溝 SD1 検出状況 西より
5. 溝 SD1 形成層序 東壁
6. 溝 SD1 形成層序 西壁
7. 溝 SD1 完掘状況 西より
8. 調査区完掘状況 南より | PL.6 調査区出土遺物
PL.7 調査区出土遺物
PL.8 調査区出土遺物
PL.9 調査区出土遺物 |

第1章 調査に至る経緯

1 経緯

八代公共職業安定所（ハローワーク八代）の庁舎老朽化に伴って、厚生省熊本労働局において庁舎新営が計画され、国土交通省九州地方整備局熊本営繕事務所によって建て替え工事が実施されることとなった。

熊本労働局長から平成24年6月15日付け熊労発総第256号にて熊本県教育長あて予備調査の依頼がなされ、平成24年8月9日に試掘調査を実施した。その結果、古代の須恵器、土師器が出土したことから、事業予定地に埋蔵文化財が存在する可能性が高いことが判明し、平成24年9月12日付け教文第667の2号にて熊本労働局長及び八代市教育長あて通知した。併せて当該地について、熊本県遺跡地図に「清水町遺跡」として新規記載することとなり、平成25年1月8日付け教文第667の3号にて八代市教育長あて通知した。

以上のとおり新たに発見された周知の埋蔵文化財包蔵地「清水町遺跡」における土木工事等の実施について、厚生省熊本労働局、国土交通省九州地方整備局熊本営繕事務所と協議を行った結果、工事の実施に際しては事前に記録保存を目的とした埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。

文化財保護法（昭和25年法律第214号）第94条第1項の規定により平成26年5月8日付け国九整熊営技第3号にて熊本県教育長あて通知がなされ、工事着手前に発掘調査の実施が必要である旨、平成26年5月20日付け教文第329号にて国土交通省九州地方整備局熊本営繕事務所長あて通知した。

八代公共職業安定所建て替え工事に係る埋蔵文化財に関する基本協定書については、平成26年6月14日付け国九整熊営技第15号にて熊本県知事あて提出され、協議のうえ平成26年6月27日付け教文第696号にて締結した。

平成27年6月9日付け教文516号で熊本県教育長あてに文化財保護法99条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し、熊本県教育委員会が調査主体となって発掘調査を実施した。現地における発掘調査は、平成27年7月1日から平成27年10月30日まで実施した。その発掘調査面積は750㎡である。整理作業は平成27年11月2日から平成27年12月28日まで実施した。

発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第59条第2項で準用する第59条第1項の規定により、平成27年10月27日付け教文第1477号にて八代警察署長あて通知した。平成28年4月28日に熊本県の帰属となり、熊本県文化財資料室に収蔵されている。

2 調査組織

現地における発掘調査は、平成27・28年度に熊本県教育庁が調査主体、熊本県教育庁教育総務局文化課が調査を担当した。その調査組織は、以下のとおりである。

平成 27 年度

調査主体者 田崎龍一（熊本県教育長）

調査責任者 手島伸介（熊本県教育庁教育総務局文化課長）

調査統括 村崎孝宏（課長補佐）

調査指導 長谷部善一（主幹兼文化財調査第一係長）

調査担当 宮崎敬士（参事）、赤星和宏（文化財保護主事）

作業員 有馬義和、池田 豊、稲森裕子、梅田幸治、木下秀樹、清田哲史、後藤幸人、
磯本末信、棚町さゆり、谷口七男、前田美奈子、前田玲子、松島洋子、
松永明子、元松 強、森本四郎、山田市生、山元 実、吉田靖宏（順不同）

平成 28 年度

調査主体者 宮尾千加子（熊本県教育長）

調査責任者 平井 貴（熊本県教育庁教育総務局文化課長）

調査統括 村崎孝宏（課長補佐）

調査指導 長谷部善一（主幹兼文化財調査第一係長）

調査担当 赤星和宏（文化財保護主事）

唐木ひとみ（臨時職員）、築出直美（臨時職員）

作業員 山内洋子、市川博幸、一野幸枝、高島憲博、武田雅子、中島幸子、
中村正子、二田美記子、久野成寛、山内洋子、藤本香織、結城あけみ（順不同）

第2章 調査

1 調査地域

(1) 遺跡の位置

清水町遺跡の立地する熊本県八代市清水町は、八代平野南部、球磨川下流域の支流「前川」北岸の三角州上に立置する。

八代平野は、熊本県中南部に位置する沖積平野であり、日本三大急流の一つである「球磨川」をはじめ、東側の山麓から流れ込む大小多くの河川による堆積作用によって形成された。

八代海は、堆積作用の影響を受け比較的水深が浅く、複合三角州や干潟が広がっている。埋め立てが容易なため、江戸時代から干拓が盛んに行われてきた。現在の平野の半分以上は、干拓により造成された土地である。当遺跡西側にも広大な干拓地が広がっており、かつては海岸や河川に面していたことが予想される。

(2) 周辺の概要（歴史的環境）

清水町遺跡は、八代市中心市街地東側の八代市清水町に位置し、遺跡名もその名に由来する。この地区は、昭和48年の町名変更までは八代市横手町洗切であった。

周辺の遺跡には、当遺跡から東へ約200mの場所に洗切遺跡が位置する。昭和56年に行われた発掘調査では、古代（奈良時代～平安時代）の土師器、須恵器などの遺物が多数出土している。当遺跡の南側すぐ脇には東西方向に萩原旧堤防跡がみられ、さらに、東方約2kmには宮地小畑・宮地観行寺遺跡が位置している。平成13年～14年に行われた発掘調査では古代の掘立柱建物跡や刻書土器などが出土しており、郡衙に関連する何らかの施設が存在した可能性が示唆されている。

球磨川下流域三角州上の清水町遺跡周辺は、地下水の湧水点が高く水が湧きやすい地域であり、また、萩原旧堤防跡の位置等から歴史的にみても水害を受けやすい環境であったことが伺える。『続日本紀』と『日本三代実録』には、天平16年（744）5月に八代・天草・葦北の郡衙、官舎が風水害にみまわれ、さらに貞観11年（869）7月にも、潮水があふれ「肥後国六郡」の官舎が倒壊、水没したという記述がみられ、同時期に清水町遺跡周辺も風水害の影響を受けたことが予想される。

2 調査の方法

発掘調査に際しては、グリッド法及び分層発掘法を採用した。

(1) グリッド法

グリッドは、世界測地系に則り、平面直角座標系第Ⅱ系に準拠して、調査区に10mグリッドを設定した。

グリッドの名称は、調査区内の10mメッシュ杭の座標系が、X座標は－54,600台、Y座標は36,300台の数値に収まっていることから、変化のある10の位の数値を用い、グリッド名設定に利用した。10mグリッドの北東隅の杭を基準として、杭のX座標が－54,650、Y座標が36,370の場合、57グリッドと表記した。調査区全体に13のグリッドを設定した。

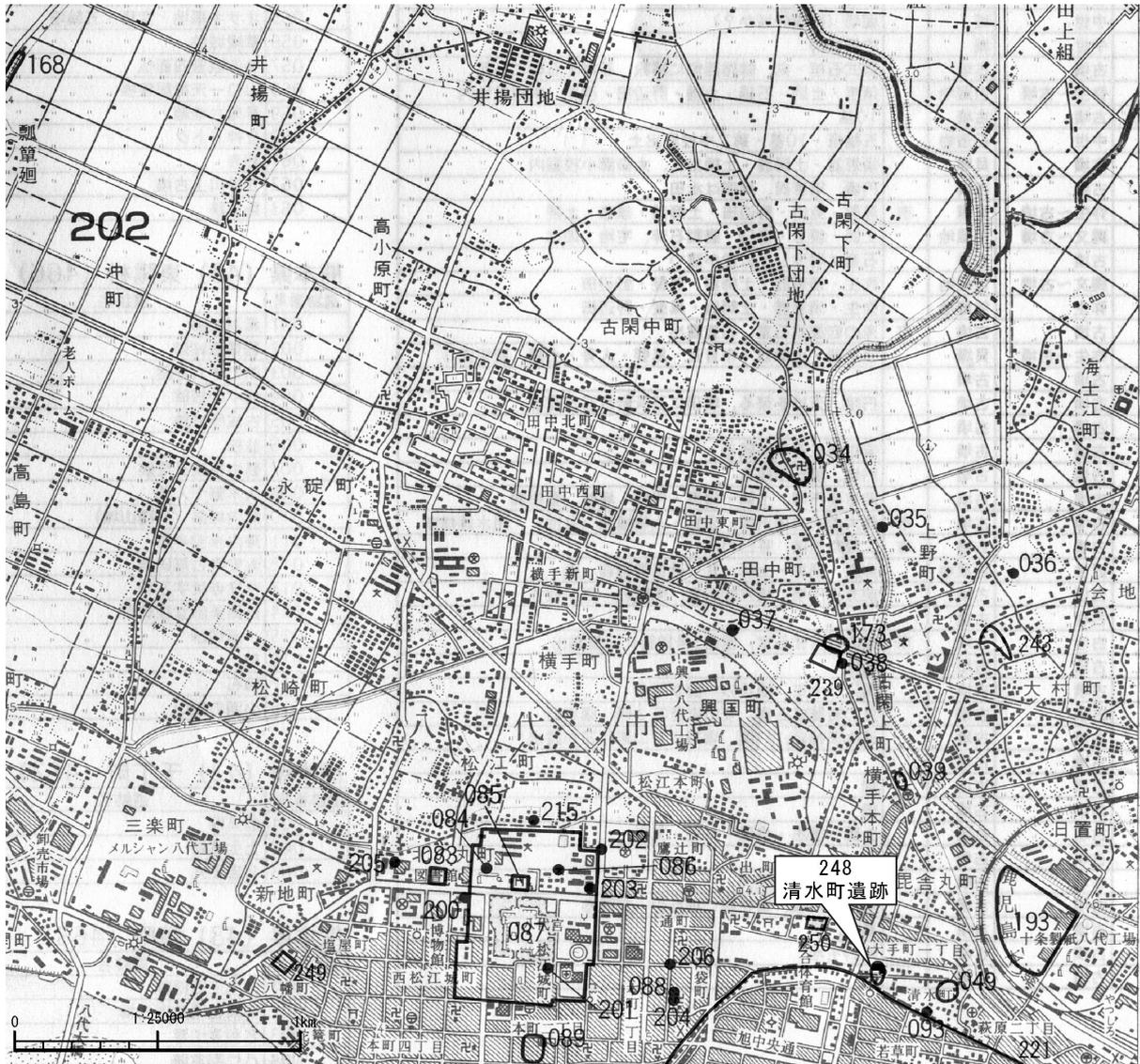


Fig. 1 清水町遺跡周辺遺跡及び位置図 (S=1/25000)

熊本県 (43) 八代市 (202)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定
034	浄沢寺貝塚	古閑中町 碓	古墳	貝塚	
035	船蔵貝塚	上野町 船蔵	古墳	貝塚	
036	碓塚貝塚	上野町 碓塚	古墳	貝塚	
037	芝口貝塚	田中町 芝口	古墳	貝塚	
038	夫婦石貝塚	古閑上町 聖神	古墳	貝塚	
039	古閑上町貝塚	古閑上町 聖神	古墳	貝塚	
049	洗切	清水町 洗切	古墳～平安	包蔵地	
083	松浜軒の茶庭	北の丸町	近世	庭園	県
084	泰勝院跡・細川三齊公茶毘所の甘草園・泰瀨院跡	北の丸町	近世	寺社	市
085	松井神社の茶庭	北の丸町	近世	庭園	市
086	八王神社の庚申碑	北の丸町 北の丸	近世	石造物	市
087	八代城跡	松江城町 他	近世	城	県
088	医王寺の庚申碑	袋町	近世	石造物	市
089	御客屋敷跡	本町二丁目	近世	包蔵地	市
093	洗切貝塚	清水町 洗切	古墳	包蔵地	
168	高島新地旧堤防	井揚町	近代	建造物	

Tab. 1 周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定
173	阿弥陀堂	田中町 阿弥陀堂	中世	包蔵地	
193	浪川貝塚	十条町 浪川		貝塚	
200	伝習堂と教衛場跡	松江城町	近世	包蔵地	市
201	永御蔵跡	西松江城町	近世	包蔵地	市
202	永御蔵御門と番所跡	古麓町	近世	建造物	市
203	宝泉院屋敷跡	北の丸町 北小路	近世	包蔵地	
204	泉福山本成寺跡	妙見町 谷	近世	寺社	市
205	松浜軒	北の丸町	近世	建造物	県
221	萩原旧堤防跡				
239	源代	横手町 源代	中世・近世	墓	
243	大間	大村町 大間	中世・近世	包蔵地	
248	清水町	清水町 1-34 2-67 他	古代・中世 近世	包蔵地	
249	若宮官軍墓地跡	八幡町及び塩屋町			
250	横手官軍墓地跡	大手町			

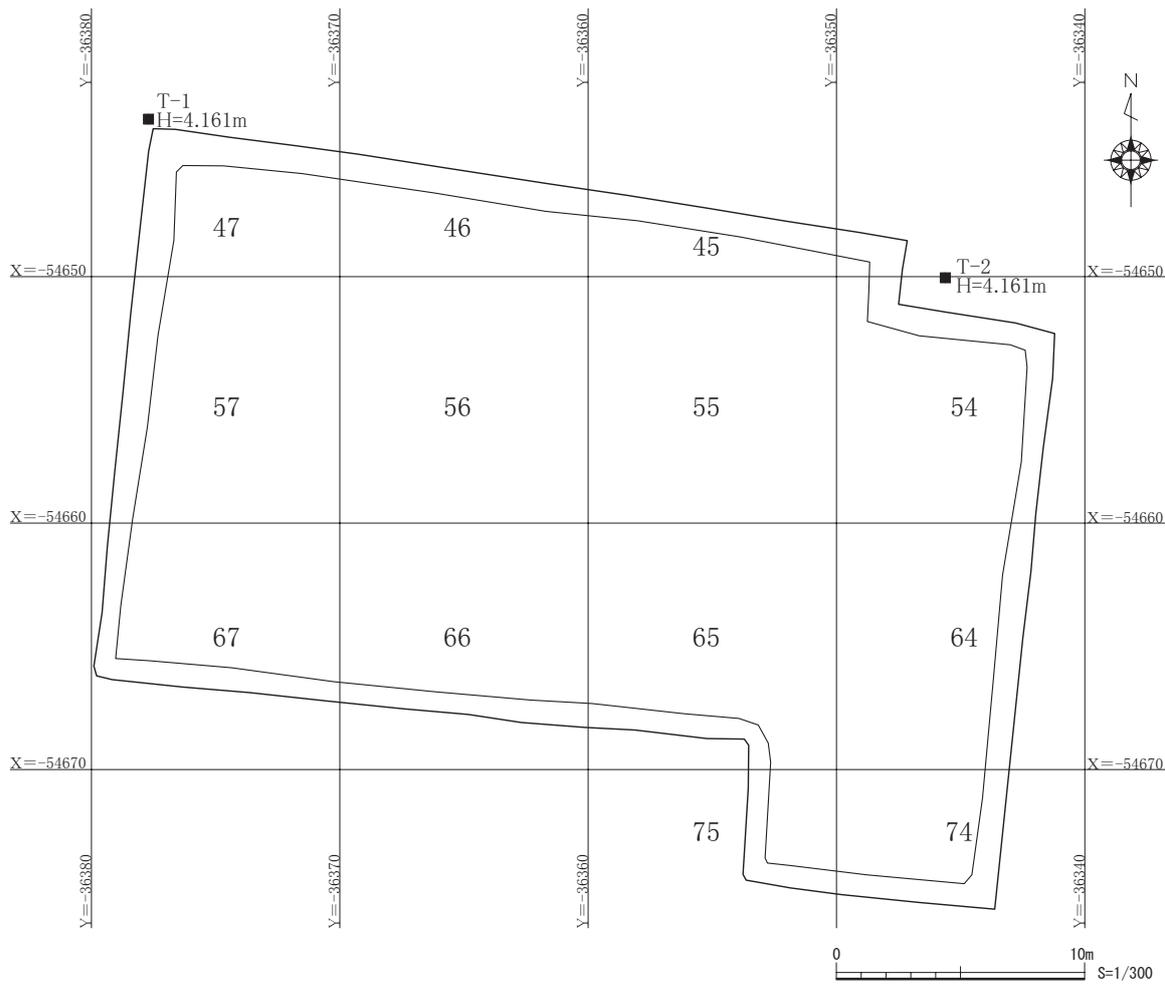


Fig. 2 調査区基準点及びグリッド設定図 (S=1/300)

世界測地系 (平面直角座標系 第II系) Tab. 2 調査区内基準点測量成果表

基準点名	X座標	Y座標	標高
T-1	X=-54643.613	Y=-36377.701	H=4.161m
T-2	X=-54650.046	Y=-36345.625	H=4.161m

(2) 分層法

調査開始前の旧八代公共職業安定所庁舎取り壊しに伴う、建物基礎撤去の際、試掘調査時に確認された調査区内の土層上部、アスファルト、砕石、攪乱層 (GL1.2～1.3 m) も併せて撤去されていたため、本発掘調査では、撤去された層は含めず層序を記述した。

各層は、土壌色、粒状構造等により区分し、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修) に準拠して記録した。

層名は、上層から算用数字を用いて「1層」、「2層」、「3層」と表記し、細分した層位は上層からアルファベット小文字を付加して「2a層」、「2b層」、「2c層」と表記している。

清水町遺跡の基本層序は次のとおりである。

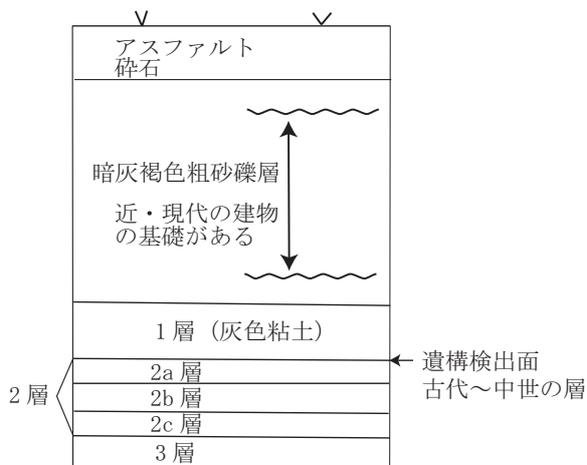


Fig. 3 基本層序図

1層：灰色粘土層 (2.5Y4/1)

粘性が高く、調査区 全体に 20 cm 程度のほぼ均一な厚みで広がっている。しまりは中程度で整地層の可能性がある。遺物出土は少ない。

2層：土色、粘性により a～c の 3 層に細分される。粘性は 1 層に比べると若干低く、古代、中世の遺物を多く含んでいる。

2a層：灰オリーブ色シルト層 (5Y5/3)

粘性小、しまり中。

2b層：暗灰黄色シルト層 (2.5Y4/2)

粘性中、しまり中。

2c層：黄褐色シルト層 (2.5Y5/4)

粘性中、しまり中。

3層：オリーブ色砂礫層 (5Y5/4、5Y5/3)

粘性は低く、しまりは 2 層より若干低い。2 層直下の面に古墳時代の遺物が出土したが、遺物の出土は極めて少ない。河床構造が見られる。

(3) その他

発掘調査は、遺構の種別を示す記号、SK (土坑)、SD (溝)、NR (自然流路) と一連の遺構番号の組み合わせにより表記した。また、遺物、土層の色調については、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修) に準拠して記録している。

3 清水町遺跡調査経過

2015年（平成27年）

7月1日 雨天のためプレハブ内で作業に関する安全教育及び発掘調査作業の内容等の基礎講習を行う。午後から発掘調査機材を文化財資料室から搬入。

7月3日 雨水のための側溝掘削とベルコン設置完了。グリッド名設定。基本層序確認。

7月7日 47、46、45グリッド1層掘削。灰色粘土層まで掘削した。鉛水道管のほか、現代の遺物が含まれており、灰色粘土層直下の黄褐色シルト層から調査対象とする方針を肯定する。

7月8日 44、45、57グリッド1層掘削。57グリッドからは、現代の遺物に混じり土師器、須恵器の破片も出土した。

7月9日 57グリッド1層掘削。夕立のためプレハブ内の整理作業。

7月10日 54、55、57グリッド1層掘削。

7月14日 64、74、75グリッド1層掘削。

7月15日 55グリッド1層掘削。大き目の須恵器壺が出土した。

7月16日 56、65グリッド1層掘削。

7月17日 56、65グリッド1層掘削。須恵器、土師器の破片が出土。

7月23日 66、67グリッド1層掘削。調査区内の旧職安庁舎パイル跡の現代の攪乱除去に着手した。攪乱はいずれも黒褐色砂礫をベースとした層であり、陶磁器、ガラス瓶、タイルを含有しており、調査対象外として扱う。

7月24日 攪乱除去作業。

7月27日 攪乱除去作業。

7月28日 攪乱除去作業。調査区北側に溝を検出した。溝内の攪乱除去後に構造が判明するだろう。

7月29日 攪乱除去作業。

8月4日 攪乱除去作業。炎天下のためカンレイシャを調査区北西部に張る。

8月5日 攪乱除去作業。

8月6日 攪乱除去作業。旧職安の浄化槽跡攪乱除去終了し、壁面露出により堆積状況が判明してきた。

8月7日 攪乱除去作業。旧職安の柱基礎の粘土層除去作業へ移った。2層掘削も開始した。

8月8日 発掘体験会実施。柱基礎内の粘土層除去作業。

8月10日 2層掘削開始。深度は10cmから20cm程度、下層の砂利が現れるまでと指示した。

8月11日 2層掘削。47グリッド掘削終了。

8月17日 57グリッド2層掘削終了、遺構なし。46グリッドからは遺物出土。

8月18日 46グリッド2層掘削終了、遺構なし。

8月20日 45、55、67グリッド2層掘削。八代市山内さん来跡。現在まで遺構は未確認であること、層序は河川堆積層ととらえていること、土師器・須恵器の遺物包含層の存在があることなどを鑑み、「包含層を中心とした遺跡」との見解を伝えた。

8月21日 45、67グリッド2層掘削時に多く遺物が出土。

8月24日 44、45グリッド2層掘削終了。遺構なし。56、66グリッドから比較的大きな遺物が出土している。

8月26日 台風被害の復旧作業。56グリッド2層掘削。遺物多数出土。

8月27日 56グリッドから5世紀のものと思われる和泉式併行甕と杯が組成する土器塊を検出し、取上げた。2層下の砂礫層から出土した。砂礫層を3層とした。

8月28日 45、55グリッド2層掘削。

8月31日 雨天のため土器洗いと除草作業
進捗状況・1層（灰色粘土層）をすべて掘削し、2層（黄褐色シルト層）一部を除いて終了した。2層は、上位5cm程度で1層と一体化している様相が確認でき、整地層である可能性が高い。2層下は地点により厚さは変化し、古代土器が包含されている。検出中の3層（砂礫層）は、河床構造を持っており、5世紀、和泉式土師器が包含されている。

9月2日 55、66グリッド2層掘削

9月3日 56～54グリッド旧職安基礎杭列と重複、並行して砂層を埋土とする溝を確認した。この溝（SD）は、東西に正走し、直線である。深さは20cm程度。3層を切っているため平安以後のSDであることは明らかであろう。

9月7日 54、55、64グリッド2層掘削

9月8日 54、64、74グリッド2層掘削

遺物は少なめである。

9月9日 SD1の掘削を開始した。64グリッド2層完掘。

9月10日 75グリッドを中心とした貝層（ポケッ

ト貝塚)が5ヶ所散在している。いずれもa) 1層の直下から2層を切り込んでいる。b) カキ、ハマグリ、アサリ、アサリ幼貝が混在し、ニシ、ケンニシも含まれている。a) から層序的に古代より新しく、b) から季節性に乏しく、清濁を選ばない組成、すなわち市場商品としての組成を示している。ケンニシ、アサリ幼貝は養殖による組成であり、近代の貝層と位置付ける。なお、廃土は回収し、水洗選別を実施した。

9月11日 65グリッド2層、SD1埋1層掘削、74グリッド貝層水洗作業。

9月14日 65グリッド2層、SD1埋1層掘削

9月17日 SD1調査区西壁、54、55、65グリッド2層掘削。遺物の出土が徐々に少なく、小さくなっている。

9月19日 ～調査区西壁の層序～

基本層序は、1層：灰色粘土層、2層：黄褐色シルト、3層：砂層、であり3層以下には砂層、細砂層、粗砂礫層が水成堆積している。ここに凹型の断面形を持つSD1が東壁同様の構造で、2層を切って位置している。

9月24日 56、66グリッドの2層掘削時に生じたグリッド間の段差を削る作業を行った。

9月25日 45、54、55、56、65、66グリッド2層掘削。11月30日までの任用期間を、作業工程の進捗により10月30日までに変更する旨、作業員に通知。

9月28日 2層をほぼ掘削したため、本日から調査区の壁切り、基礎杭跡の清掃を開始した。併せて2層より下位層の包含層の有無を確認するため、調査区西壁際にトレンチを設定し、掘削を開始した。

10月2日 全景撮影、2層完掘状況他

10月5日 SD1埋2層掘削、壁の土層を明確にするため壁切り作業。

10月6日 SD1埋2層掘削

10月7日 遺構の外枠を、遺構実測システムを用い実測。SD1埋2層掘削、54、55、56グリッド掘削

10月8日 SD1、埋2層面を完掘し、埋3層掘削を行った。

粘土層を除去した後、下層から砂礫層を確認した。

～SD1の掘削単位～

SD1には、掘削単位があり(おそらく10m程度)があり、単位が連結することにより溝を形成している。単位の連結点は平面では1m弱の長さで食い違い、それぞれ断面形はわずかながら異なっている。ただし、このことをもって「SD1が人力掘削の遺構であり、所属時期は中世以前となる。」と、することはできない。0.2重機の掘削でもしばしば平面食い違いは起き、砂礫層の堆積状況によって断面形は変化するためである。

10月9日 SD1の土層断面撮影

～SD1の所属時期について～

9:30頃SD1埋3層(54グリッド)から白磁片が出土した。湯呑茶碗口縁部片であり、おそらくは現代の品である。SD1埋3層が砂層、粘土層の2層構造を持つ部分、粘土層上面に貼り付く形で出土した。なお、基礎杭穴が隣(南側)にあるが、SD1埋3層に包含されていることは、しっかりと宮崎敬士が確認した。写真撮影し、白磁単独で取り上げた。

10月13日 SD1埋2、3層掘削。SK1～SK18、貝層範囲など遺構くん(CUBIC製)を用いて本格的に実測を開始した。

10月14日 SD1埋2、3層掘削完了。調査区側壁土層実測を行う。

10月15日 調査区側壁土層図実測。SD1完掘状況(調査完了状況を兼ねる。)撮影。人力での埋戻し作業を開始した。

10月16日 SD1平面図、調査区側壁土層図実測完了。埋戻し作業。

10月19日 遺構くんを活用したSD1東西壁デジタルカメラ画像を利用した土層実測を行った。

10月20日 埋戻し作業と機材整備。

10月21日 壁全面の土層注記完了。現地における発掘調査を完了した。

10月22日～10月30日 人力埋戻し、機材整理、搬出作業を行う。

11月1日～12月25日 現地調査事務所にて調査成果整理作業、重機による埋戻し作業を実施。平成27年度の発掘調査を終了し、熊本宮繕事務所への引き渡しを行う。

第3章 調査の成果

1 遺構

自然流路 NR (Fig. 4) 調査区内の北東から南西へ、調査区を2分する形で流路遺構を検出した。本来、自然の作用に係るものであるため「遺構」という名称を使用するものではないが、遺跡周辺の元来の地形とSD1の歴史的位置づけを考察する上で必要であることから、遺構に準じるものとして報告した。

NRを検出した面は2層(2a~2c層:遺物包含層)直下である。3層同様の砂礫、河床構造を持ち、遺物は包含していない。45、54、55、65、66、67グリッドに位置し、法量は全長30m、最大幅は7mを測る。下端の形状及びレベルが一定しない自然流路の形状を表しており、人為的な掘削の跡は見られない。

NR直上の2層の遺物出土数や遺物の種類は比較的豊富で、45、55、66グリッド内に多く出土した。

溝SD1 (Fig. 5) 調査区北側に2~3層とNRを切り込んだ遺構を検出した。遺構は、54~57グリッドに東から西へ調査区を貫通する形で位置しており、両端は調査区外へ延びている。東から西に向かって緩い傾斜を持つ。法量は全長28m、最大幅1.6m、遺構検出面からの深さ30cmを測る。

遺構内埋土の堆積は、遺構掘削に伴い東西両端の断面で観察した。埋土の土色、土質等は、2層と似た様相をみせている。

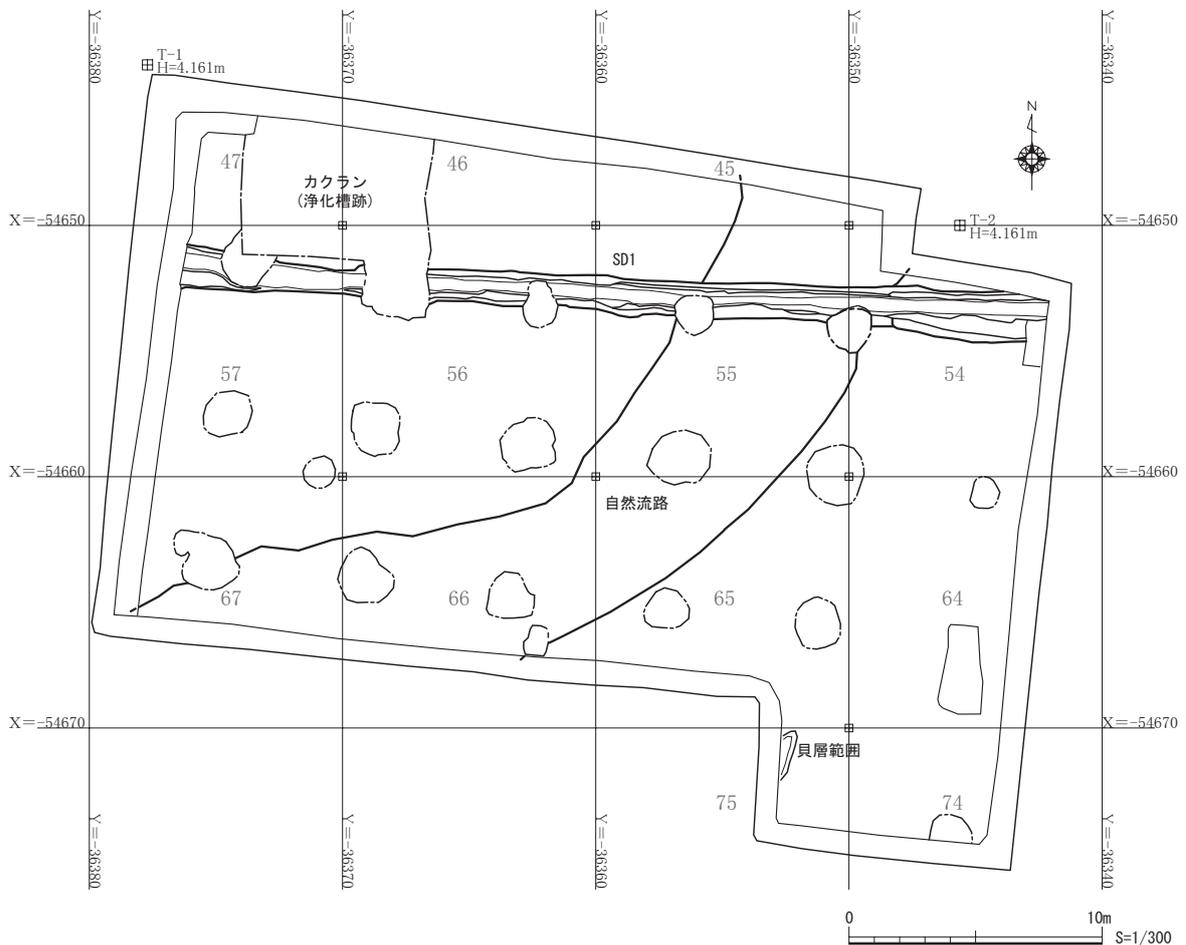


Fig.4 清水町遺跡遺構配置図

出土遺物は遺構外調査区との偏りはなく、溝遺構の埋土に流れ込んでいるものと考えられる。
 須恵器、土師器、白磁片が出土している。

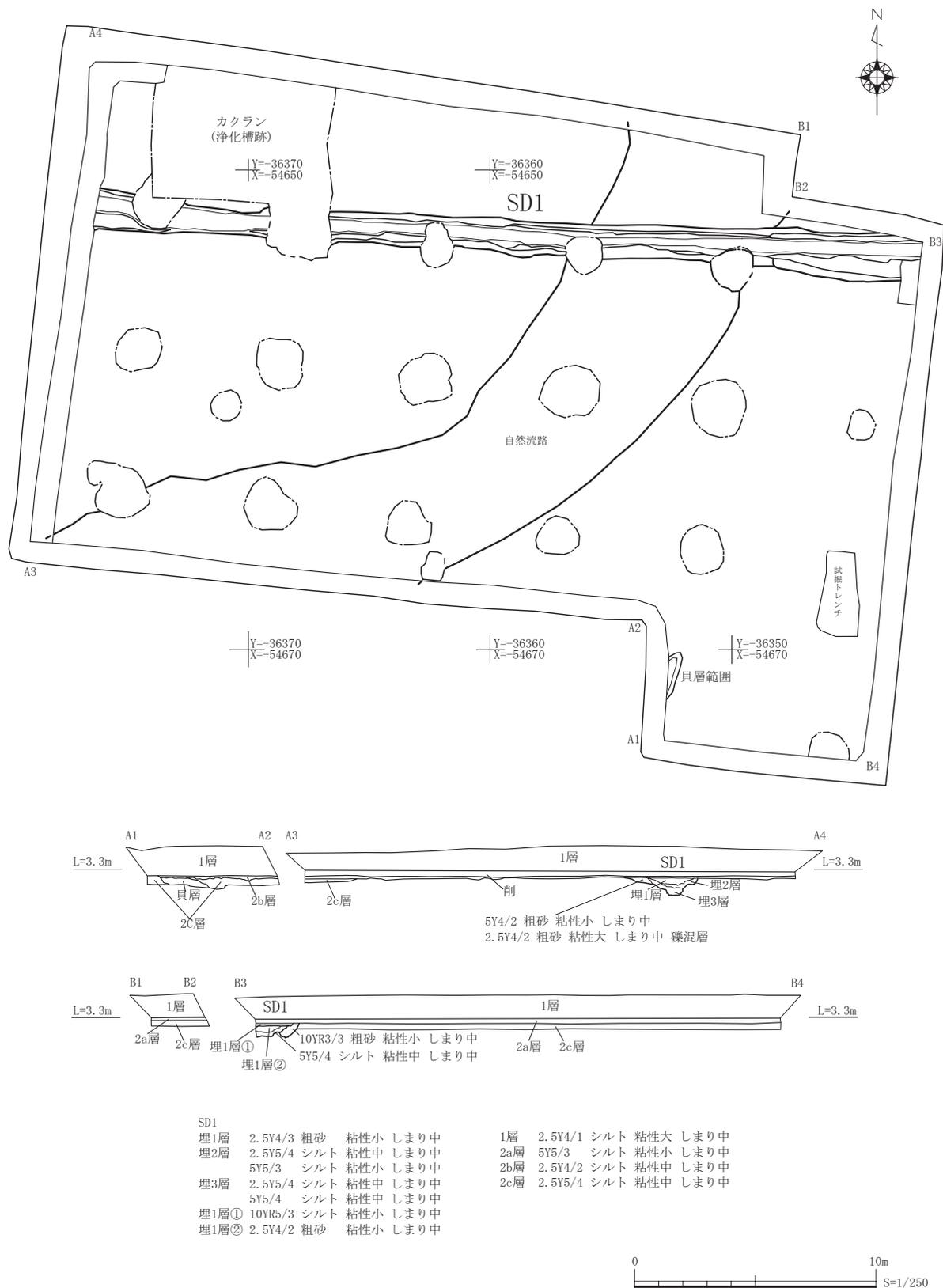


Fig.5 溝 SD1 平面図・断面図

2 遺物

清水町遺跡では、2層及び3層から古墳時代中期から中世を中心とした土師器、須恵器、磁器、土錘が出土した。

遺物実測図、観察表を以下に示す。

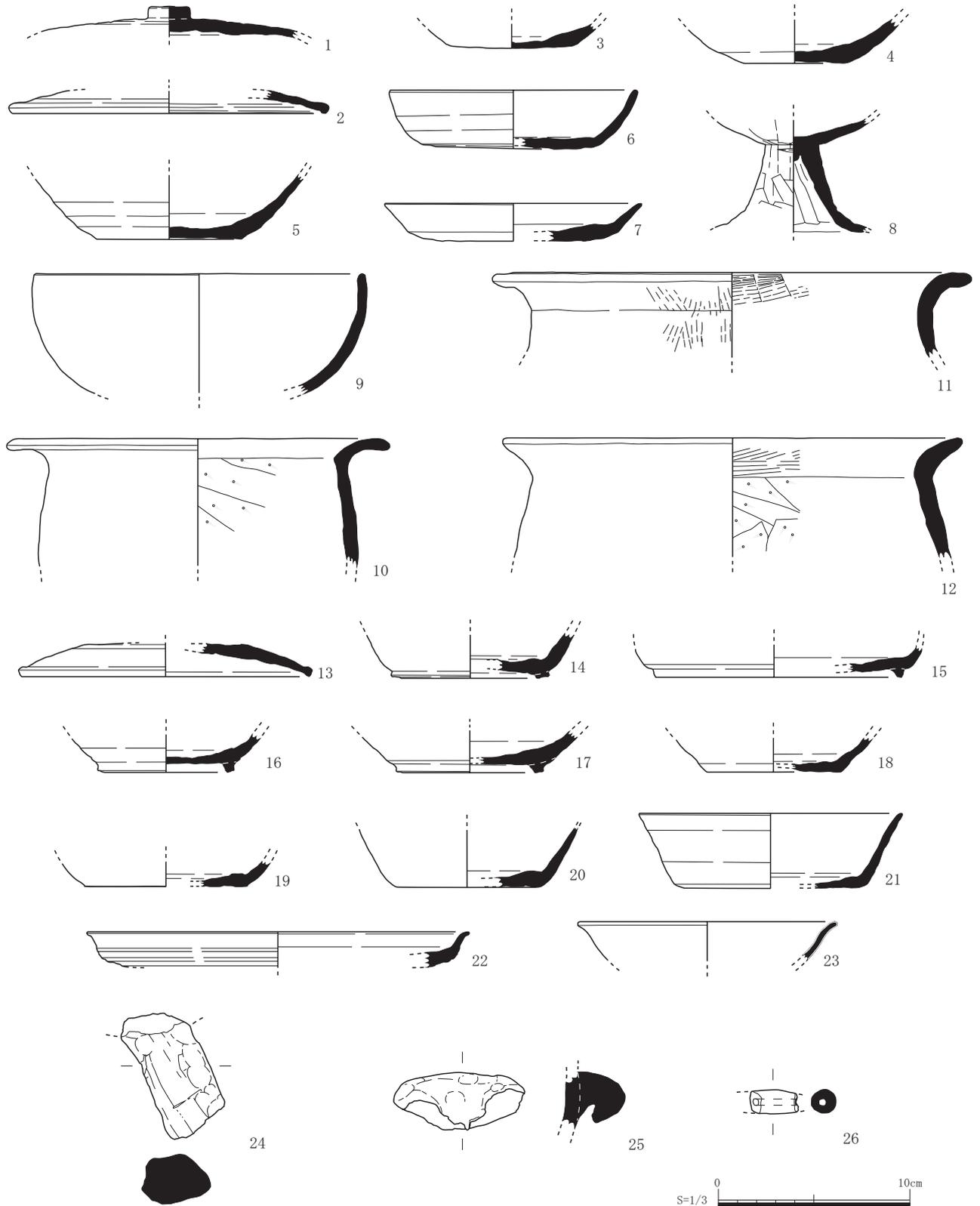


Fig.6 溝SD1 出土遺物実測図

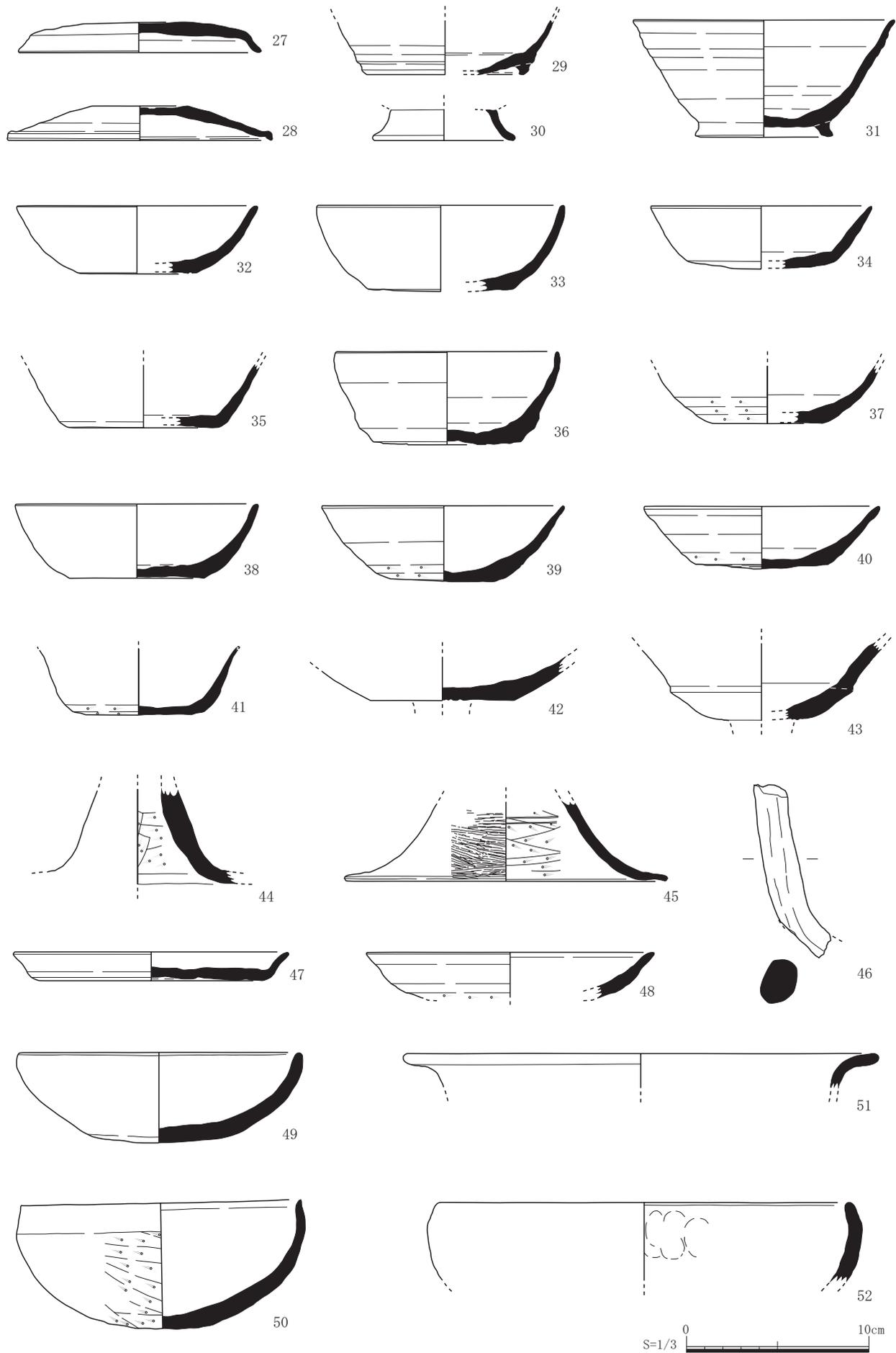


Fig.7 調査区出土遺物実測図

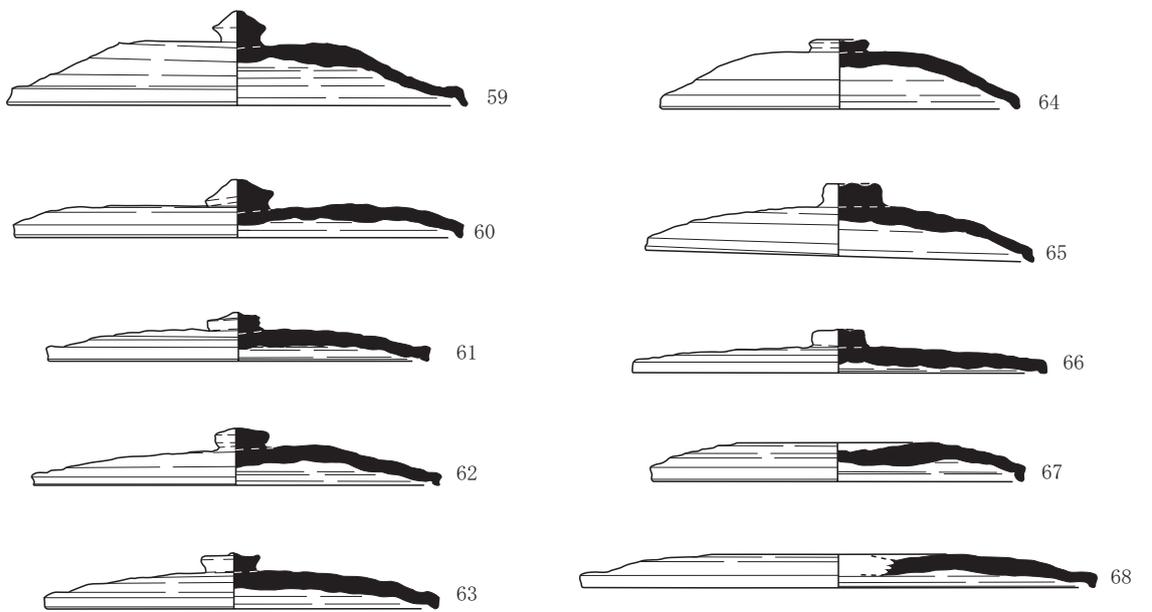
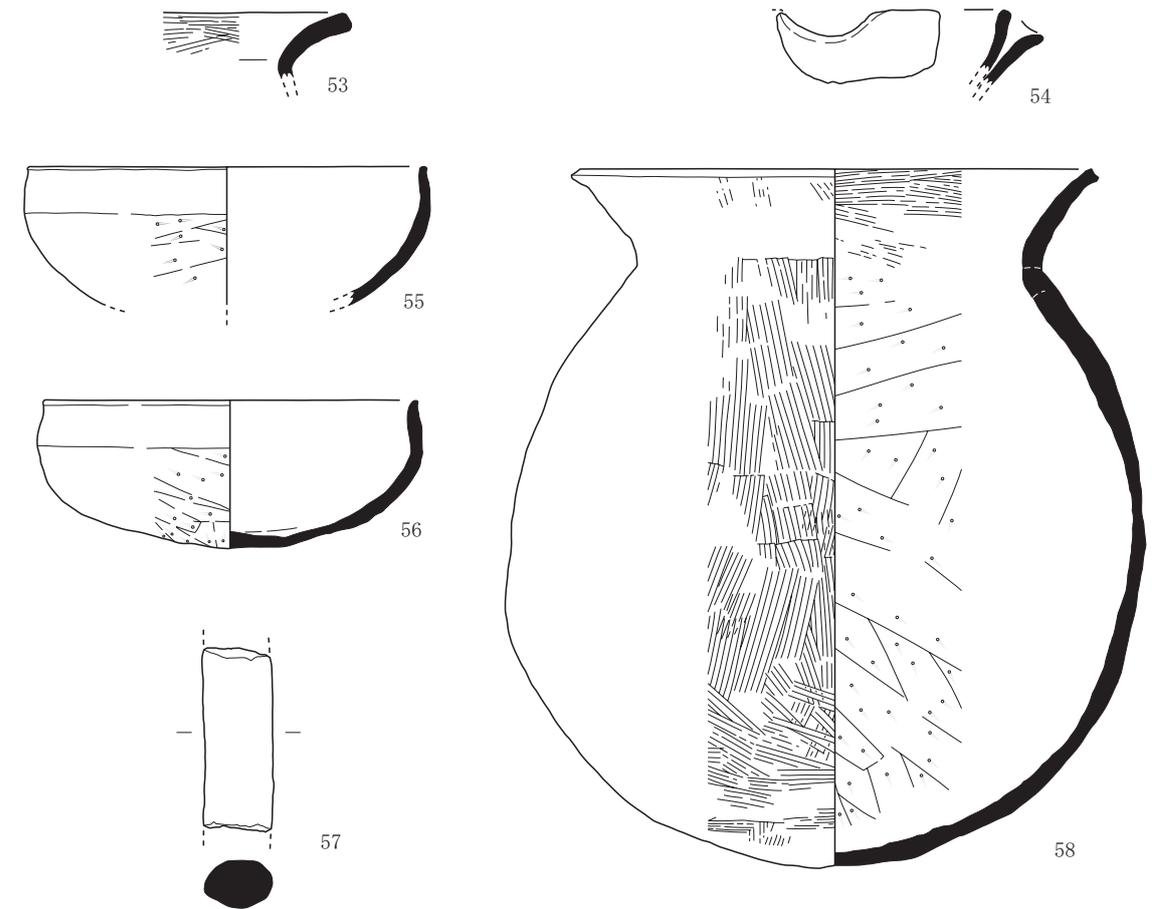


Fig.8 調査区出土遺物実測図

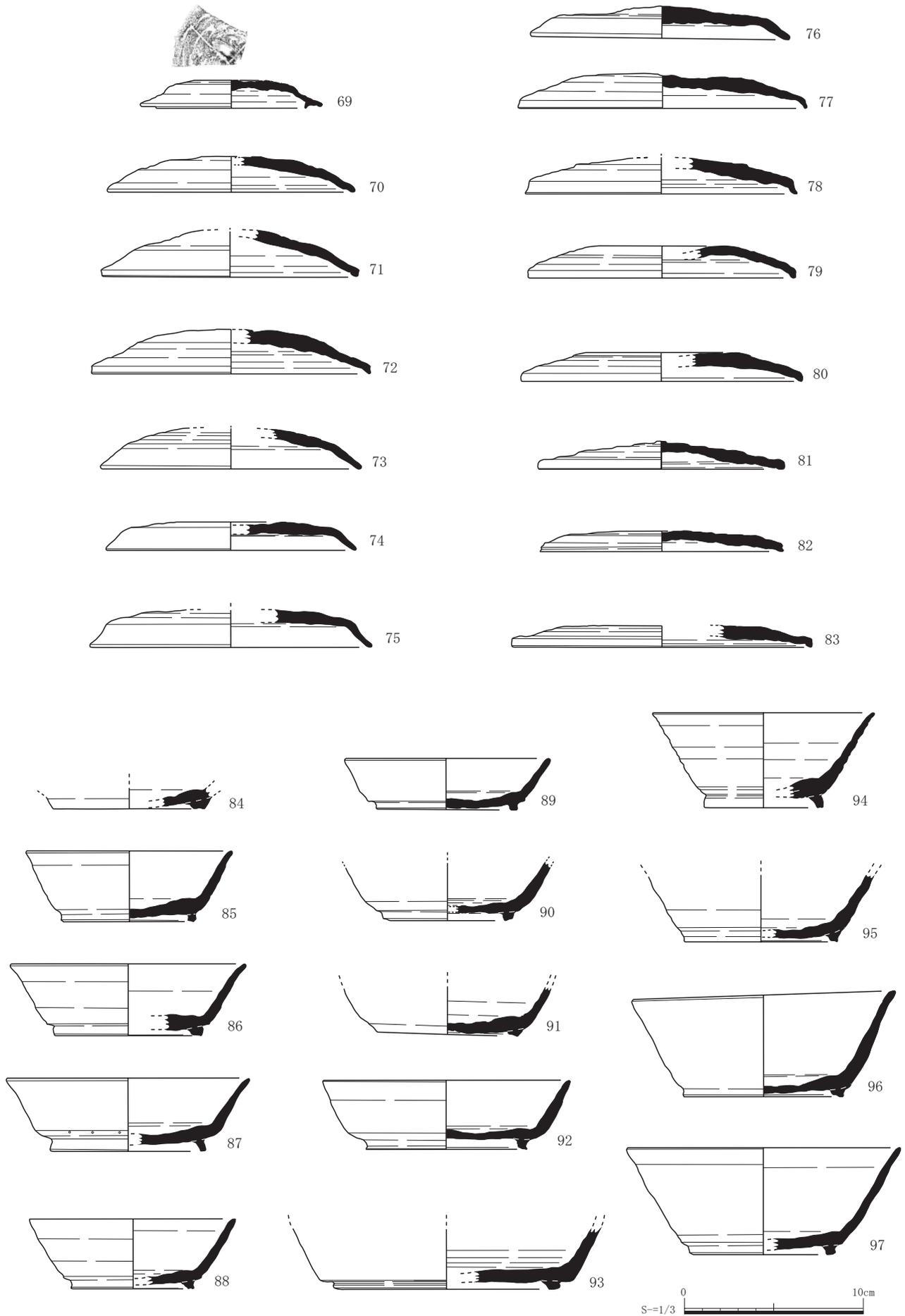


Fig.9 調査区出土遺物実測図

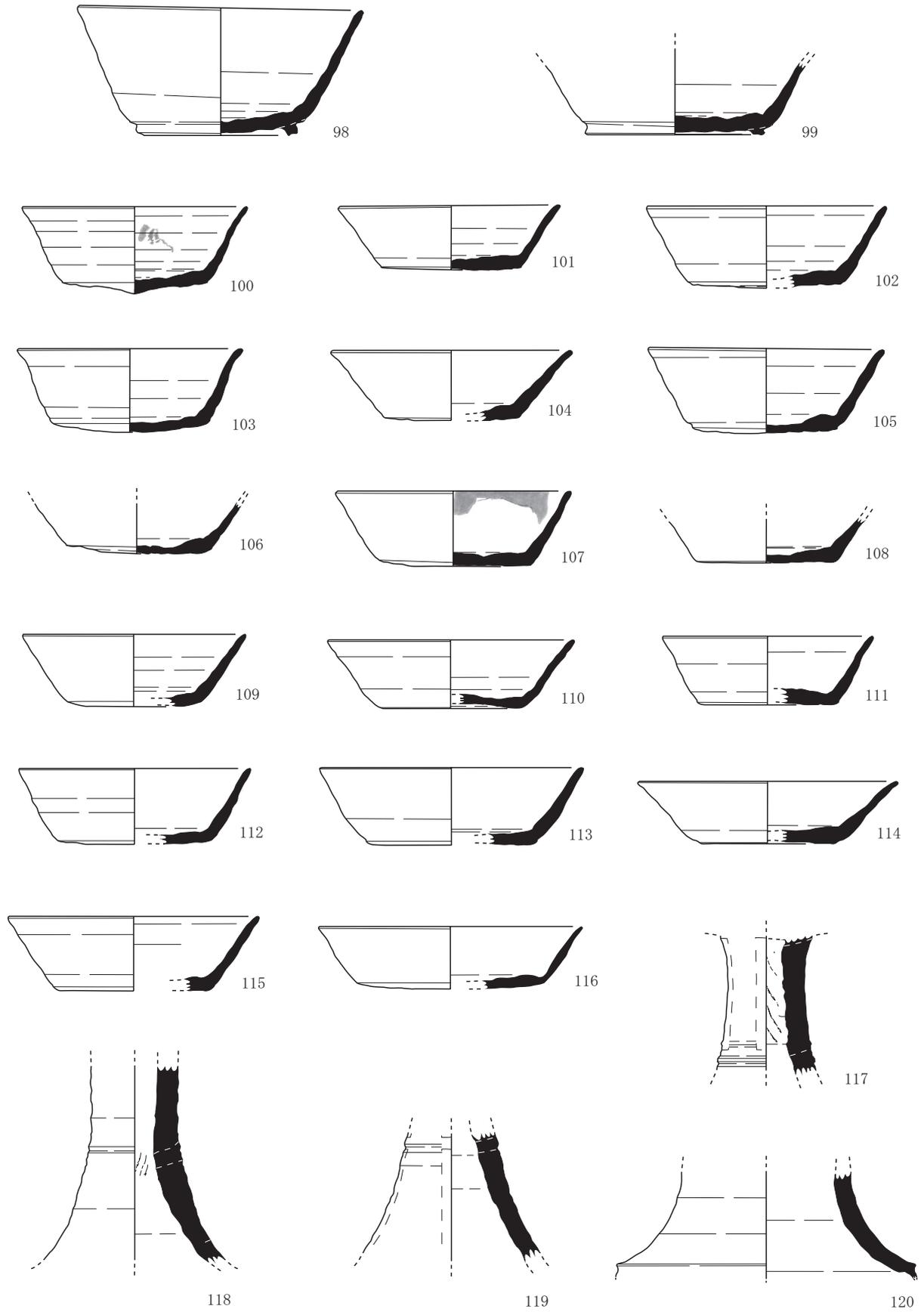


Fig.10 調査区出土遺物実測図

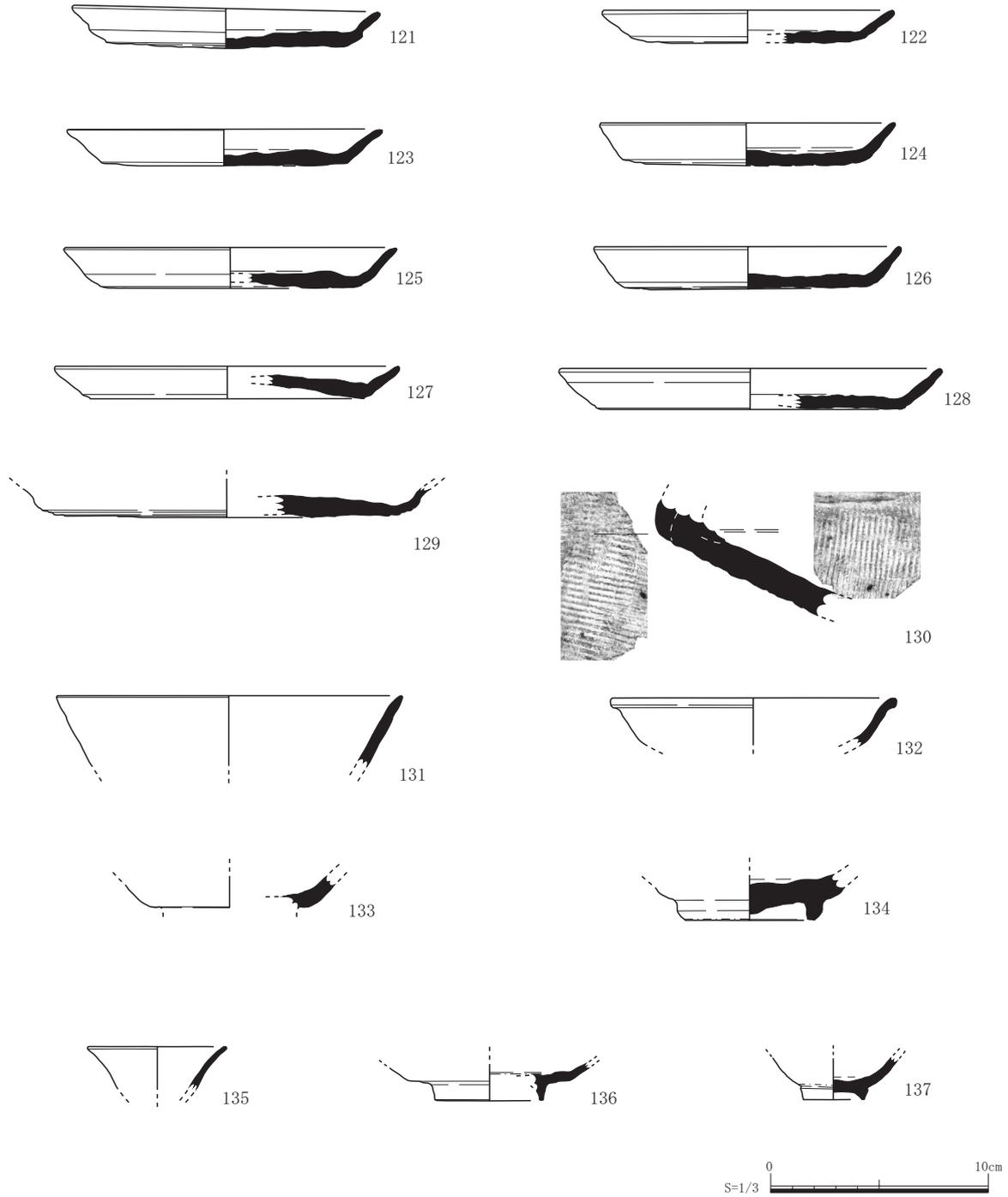


Fig.11 調査区出土遺物実測図

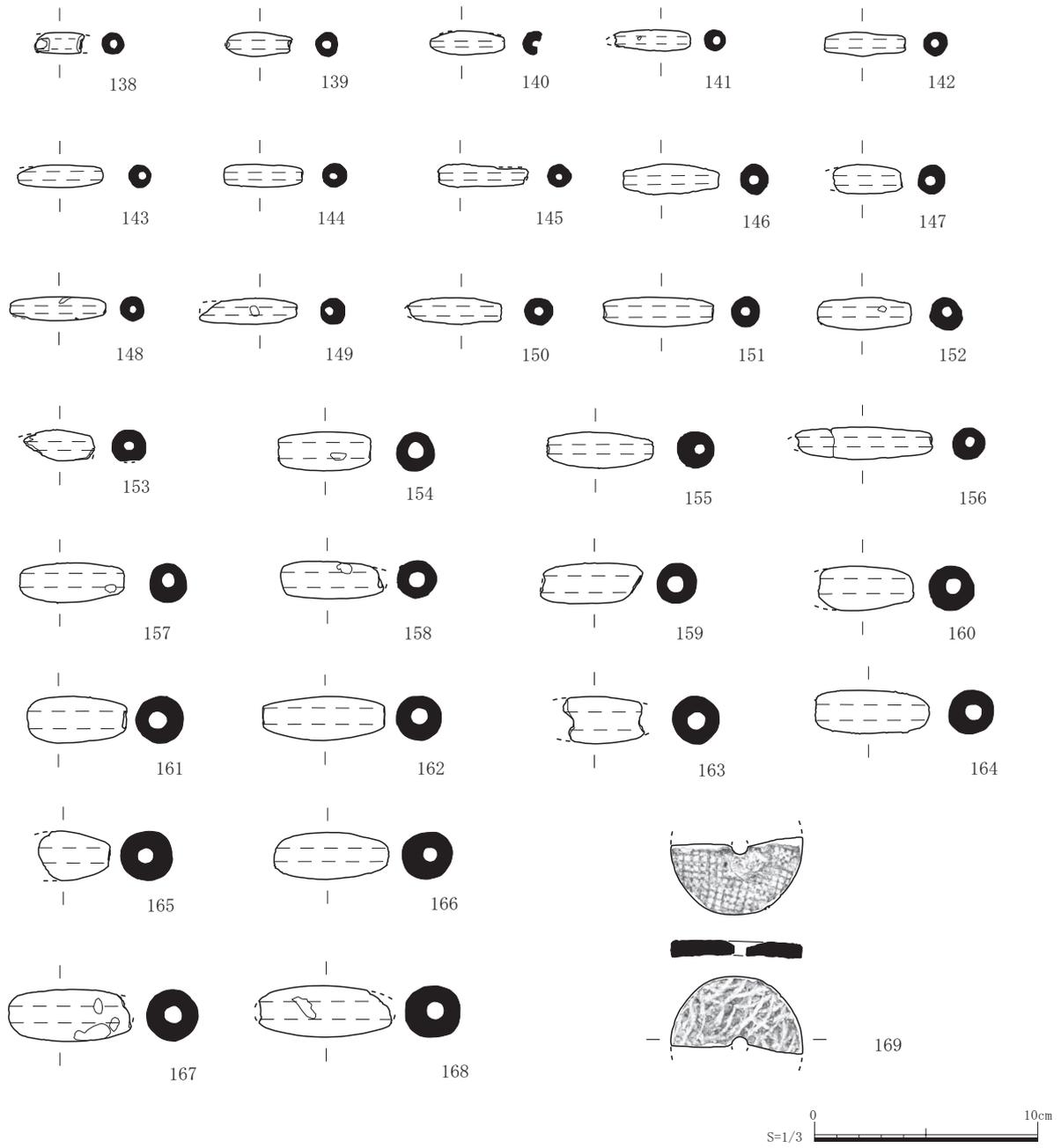


Fig.12 調査区出土遺物実測図

遺物 番号	Fig. No.	PL No.	器種	種別	遺構 番号	グリッド	層位	法量 (cm)			色調		胎土	
								口径	底径	器高	外面	内面		
1	6	2・4	蓋 (摘付)	土師器	SD1	56	埋1	—	—	(1.6)	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・赤褐色粒	
2			蓋	土師器	SD1	56	埋1	(16.8)	—	(1.2)	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・赤褐色粒	
3			坏	土師器	SD1	54	埋2	—	(6.4)	(1.3)	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 5YR7/6	1mm以下の砂粒・白色粒	
4			坏	土師器	SD1	55	埋2	—	5.2	(2.3)	淡橙 5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 角閃石	
5			坏	土師器	SD1	56	埋2	—	(7.6)	(3.4)	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・赤褐色粒	
6			坏	土師器	SD1	56	埋2	13.0	9.4	3.1	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	1mm以下の砂粒・小石粒	
7			皿	土師器	SD1	54	埋3	(13.4)	(11.0)	2.0	橙 5YR7/6	橙 2.5YR7/6	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒	
8			高坏	土師器	SD1	55	埋3	—	—	(5.9)	にぶい橙 5YR7/4	灰白 2.5Y7/1	混入物はほとんどない	
9			鉢	土師器	SD1	54	埋2	(17.4)	—	(6.3)	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 2.5YR6/8	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・角閃石	
10			甕	土師器	SD1	55	埋3	(20.0)	—	(6.7)	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR7/6	1mmの砂粒・白色粒 赤褐色粒・角閃石	
11			甕	土師器	SD1	56	埋2	(25.0)	—	(4.5)	橙 5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 角閃石・石英	
12			甕	土師器	SD1	56	埋2	(24.0)	—	(6.3)	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 角閃石・雲母	
13			蓋	須恵器	SD1	56	埋1	(15.4)	—	(1.8)	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒	
14			坏 (高台付)	須恵器	SD1	56	埋1	—	(8.2)	(2.4)	灰白 10Y7/1	灰白 7.5Y7/1	1mm以下の砂粒	
15			不明 (高台付)	須恵器	SD1	57	埋1	—	(13.4)	(1.5)	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・黒色粒	
16			坏 (高台付)	須恵器	SD1	54	埋2	—	(7.2)	(2.0)	灰白 2.5Y8/2	明褐灰 7.5YR7/1	混入物はほとんどない	
17			坏 (高台付)	須恵器	SD1	54	埋2	—	(7.7)	(2.2)	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	1mm以下の砂粒	
18			坏	須恵器	SD1	54	埋2	—	(7.0)	(1.8)	灰白 N7/	灰白 7.5Y8/1	1mm以下の砂粒	
19			不明	須恵器	SD1	56	埋2	—	(8.6)	(1.3)	灰 N6/	灰 N6/	1mm以下の砂粒	
20			坏	須恵器	SD1	54	埋2	—	(7.6)	(3.1)	灰白 5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒	
21			坏	須恵器	SD1	56	3	(13.8)	(10.1)	4.0	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	1mm以下の砂粒・黒色粒	
22			盤	須恵器	SD1	56	埋2	(20.0)	(16.5)	(1.9)	灰白 10Y7/1	灰白 5Y7/2	1mm以下の砂粒	
23			碗	白磁	SD1	54	埋3	(13.6)	—	(2.1)	ブルーウォッシュ 3PB8.5/1.0	スノウホワイト N9.5	精	
24			脚	土師器	SD1	57	埋1	—	—	(6.7)	にぶい赤褐 5YR4/4		1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・雲母	
25			把手	土師器	SD1	54	埋2	—	—	(3.1)	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・角閃石 石英	
27	7	5	蓋	土師器	—	55	2	13.3	—	1.7	にぶい橙 5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・赤褐色粒・雲母	
28			蓋	土師器	—	65	2	(14.6)	(5.2)	1.9	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/8	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒	
29			坏 (高台付)	土師器	—	45	2	—	(9.2)	(3.0)	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	混入物はほとんどない	
30			高坏	土師器	—	67	2	—	(7.8)	(1.7)	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR6/8	1mm以下の砂粒・赤褐色粒	
31			坏 (高台付)	土師器	—	55	2	(14.4)	(7.5)	6.5	橙 5YR7/6	浅黄橙 2.5YR8/4	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・赤褐色粒	
32	2・4	5	坏	土師器	—	65	2	(13.2)	(6.6)	3.8	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	1mm以下の砂粒・小石粒 赤褐色粒	
33			坏	土師器	—	65	2	(13.6)	(8.0)	4.7	橙 7.5YR7/6	にぶい褐 7.5YR5/3	1mmの砂粒・小石粒 赤褐色粒	
34			坏	土師器	—	55	2	(12.2)	8.1	3.5	橙 2.5YR7/6 浅黄橙 7.5YR8/4	橙 2.5YR7/6 浅黄橙 7.5YR8/4	～1mm以下の砂粒 小石粒・白色粒	
35	5	坏	土師器	—	66	2	—	(8.2)	(3.5)	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	1mm以下の砂粒 赤褐色粒		

Tab. 3 遺物観察表

	調整				備考	遺物 番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	ナデ	ナデ	—	—	摘部 3/5 残存 調整摩耗	1
	回転ナデ	回転ナデ	—	—	口縁部 1/6 残存 調整摩耗	2
	—	—	ナデ	ナデ	底部 1/3 残存 調整摩耗	3
	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	底部 6/7 残存 調整摩耗	4
	回転ナデ	ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 1/4 残存 調整摩耗	5
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 3/5 残存 調整摩耗	6
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	底部 1/6 ～口縁部僅かに残存 調整摩耗	7
	工具ナデ	工具ナデ	—	ナデ	脚上部～坏底部完存	8
	ナデ	ナデ	—	—	口縁部 1/5 残存 調整摩耗	9
	ナデ	ヘラケズリ	—	—	口縁部 1/6 残存 調整摩耗	10
	ハケ目	ハケ目	—	—	口縁部僅か残存 調整摩耗	11
	ナデ	ハケ目・ヘラケズリ	—	—	口縁部 1/10 残存 調整摩耗	12
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	天井部 1/3 ～端部 1/6 残存 別個体片窯着	13
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	底部 1/4 残存	14
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	底部 1/4 残存	15
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	底部 1/5 残存	16
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 1/3 残存	17
	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	底部 1/4 残存 摩耗のため調整不明瞭	18
	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	底部 1/3 残存	19
	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 1/4 残存	20
	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	底部 1/4 ～口縁部 1/6 残存 摩耗のため調整不明瞭	21
	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	—	口縁部 1/10 残存 自然釉	22
	施釉	施釉	—	—	口縁部 1/10 残存	23
	工具ナデ・ナデ	—	—	—	鍋脚?	24
	ナデ・指頭圧痕	—	—	—	鍋把手?	25
	回転ナデ	回転ナデ	—	—	天井部完存～端部 2/5 残存 調整摩耗	27
	回転ヘラケズリ	回転ナデ	—	—	天井部 1/3 ～口縁部 1/6 残存 調整摩耗 赤彩	28
	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	底部 1/5 残存 調整摩耗	29
	ナデ	ナデ	—	—	脚 1/4 残存 調整摩耗	30
	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	底部 1/3 ～口縁部僅か残存 調整摩耗	31
	ナデ	ナデ	—	—	底部 1/4 ～口縁部 1/3 残存 調整摩耗	32
	—	—	—	—	底部 1/6 ～口縁部 1/2 残存 調整摩耗	33
	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	底部 2/3 ～口縁部 1/4 残存 摩耗のため調整不明瞭	34
	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	ナデ	底部 1/4 残存 調整摩耗	35

遺物 番号	Fig. No.	PL No.	器種	種別	遺構 番号	グリッド	層位	法量 (cm)			色調		胎土
								口径	底径	器高	外面	内面	
36	7	2・4	坏	土師器	—	55	2	(12.2)	(8.1)	5.1	にぶい橙 7.5YR7/3	浅黄橙 7.5YR8/4	～1mmの砂粒・赤褐色粒雲母
37		5	坏	土師器	—	54	2	—	(6.0)	(3.2)	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	～1mmの砂粒・赤褐色粒雲母
38		2・4	坏	土師器	—	65	2	(13.3)	(7.4)	4.1	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 10YR8/3	～1mmの砂粒・赤褐色粒
39			坏	土師器	—	66	2	13.3	5.8	4.2	橙 2.5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/4	～1cmの砂粒・小石粒 赤褐色粒
40			坏	土師器	—	55	2	(13.0)	(7.4)	3.5	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	石英・砂粒
41			坏	土師器	—	67	2	—	(5.8)	(3.7)	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 雲母・石英
42			高坏	土師器	—	56	2	—	—	(2.4)	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	1mm以下の砂粒・赤褐色粒
43			高坏	土師器	—	67	2	—	—	(4.2)	橙 5YR7/6	橙 5YR7/8	1mm以下の砂粒・赤褐色粒
44		高坏	土師器	—	66	1	—	—	(5.2)	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	混入物はほとんどない	
45		5	高坏	土師器	—	75	2	—	(17.8)	(4.4)	明赤褐 2.5YR5/6	浅黄橙 7.5YR8/6	～1mmの砂粒・小石粒 白色粒・赤褐色粒
46		脚	土師器	—	55	2	—	—	(9.5)	にぶい橙 5YR6/4		～1mmの砂粒・白色粒 赤褐色粒・角閃石	
47		皿	土師器	—	55	2	(15.2)	(13.0)	1.6	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/4	～1mmの砂粒・小石粒 白色粒・角閃石	
48		皿	土師器	—	67	2	(15.8)	—	(2.5)	にぶい橙 7.5YR7/4 赤橙 10R6/8	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 雲母	
49		2・4	鉢	土師器	—	65	2	15.7	—	5.0	にぶい赤褐 2.5YR4/3	明赤褐 5YR5/6	～1mmの砂粒・小石粒 雲母・石英
50			鉢	土師器	—	54	2	(15.4)	—	7.0	橙 5YR7/6 明赤褐 2.5YR7/6	橙 5YR7/8	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 角閃石
51			鉢	土師器	—	56	2	(26.0)	—	(1.9)	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	1mm以下の砂粒・白色粒 赤褐色粒・角閃石
52		鉢	土師器	—	64	2	(22.8)	—	(4.3)	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/3	1mmの砂粒・小石粒 白色粒・茶褐色粒	
53		5	鉢	土師器	—	66	2	—	—	(2.6)	にぶい橙 7.5YR7/3	浅黄橙 7.5YR8/3	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 角閃石・石英
54			鉢 (片口)	土師器	—	45	2	—	—	(2.9)	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	1mm以下の砂粒・白色粒 茶褐色粒・角閃石
55			鉢	土師器	—	67	2	(15.8)	—	(5.5)	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	1mm以下の砂粒・小石粒
56			鉢	土師器	—	56	3	14.8	—	5.9	明黄褐 10YR7/6	橙 5YR6/6	1mm以下の砂粒・雲母
57			不明土製品	土師器	—	66	2	—	—	(7.3)	にぶい橙 5YR7/4		1mm以下の砂粒・白色粒 赤褐色粒
58			甕	土師器	—	56	3	20.8	—	27.8	橙 5YR7/8	橙 2.5YR6/8	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・雲母
59		8	蓋 (摘付)	須恵器	—	65	2	(18.2)	9.6	3.8	灰 N6/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒
60			蓋 (摘付)	須恵器	—	66	2	(17.8)	—	2.3	灰 N6/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒
61			蓋 (摘付)	須恵器	—	66	2	(15.2)	—	1.9	灰 N5/	黄灰 2.5Y5/1	1mm以下の砂粒・白色粒
62			蓋 (摘付)	須恵器	—	64	2	(16.2)	—	2.3	灰白 5Y7/1	灰白 5Y8/1 にぶい橙 7.5YR7/3	1mm以下の砂粒
63			蓋 (摘付)	須恵器	—	55	2	(15.6)	—	2.2	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒
64			蓋 (摘付)	須恵器	—	65	2	(14.3)	—	2.9	灰白 N7/	灰白 N8/	1mm以下の砂粒・白色粒
65	蓋 (摘付)		須恵器	—	65	1	(14.4)	—	(3.1)	灰白 N7/	灰 N6/	1mm以下の砂粒	
66	蓋 (摘付)		須恵器	—	55	2	(16.4)	—	1.7	灰白 7.5YR8/1	灰白 7.5YR8/1	1mm以下の砂粒	
67	蓋 (摘付)		須恵器	—	45	2	(14.7)	(8.0)	1.6	灰 N6/	灰 N6/	1mm以下の砂粒	
68	蓋 (摘付)		須恵器	—	67	2	(20.2)	—	(1.3)	灰白 5Y8/1	灰白 N8/	1mm以下の砂粒・角閃石	
69	9	蓋	須恵器	—	65	2	(10.2)	—	1.6	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒	

Tab.4 遺物観察表

	調整				備考	遺物 番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	底部 1/2 ～口縁部僅か残存 調整摩耗	36
	回転ヘラケズリ	—	回転ナデ	回転ナデ	底部 1/3 残存 調整摩耗	37
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ	回転ナデ	全体の 1/4 残存 調整不明瞭	38
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ	全体の 3/5 残存	39
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ	回転ナデ	底部 1/2 ～口縁部 1/5 残存 調整摩耗	40
	回転ナデ	ナデ	回転ヘラケズリ	ナデ	底部 2/3 残存	41
	ナデ	ナデ	回転ナデ	ナデ	底部 2/5 残存 調整摩耗	42
	ナデ	回転ナデ	ナデ	ナデ	坏部 1/6 残存 調整摩耗	43
	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	ナデ	ナデ	脚部 1/5 残存 調整摩耗	44
	ハラミガキ・赤彩	工具ナデ・ナデ	ヨコナデ	ナデ	赤彩 底部 1/6 残存	45
	ナデ	—	—	—	鍋脚?	46
	ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	ナデ	底部 1/4 ～口縁部僅か残存 調整摩耗	47
	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	赤彩 口縁部 1/5 残存 内外面赤彩	48
	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	—	全体の 9/10 残存 全体被熱痕 黒斑 被熱痕 煤付着	49
	ヨコナデ 手持ちヘラケズリ	ナデ	ナデ	ナデ	ほぼ完形 赤彩? 黒斑 摩耗のため調整不明瞭	50
	ナデ	ナデ	—	—	口縁部僅か残存 調整摩耗	51
	ナデ	ヨコナデ・指頭圧痕	—	—	口縁部 1/6 残存 調整摩耗	52
	ヨコナデ	ハケ目	—	—	口縁部破片 煤付着? 弥生土器か?	53
	ナデ	ナデ	—	—	口縁部破片 調整摩耗	54
	ヨコナデ 手持ちヘラケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	—	赤彩? 口縁部 1/6 残存 内外面赤彩	55
	ヨコナデ 手持ちヘラケズリ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	工具ナデ	底部完存～口縁部 5/6 残存 黒斑 被熱痕 煤付着	56
	—	—	—	—	脚? 把手? 調整摩耗	57
	ハケメ	ヨコナデ・ヘラケズリ	ナデ	ナデ	全体の 2/3 残存 煤付着	58
	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ	—	—	摘完存～端部 1/3 残存	59
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	全体の 1/4 残存 外面に工具による圧痕か?	60
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	摘完存～端部 1/6 残存	61
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	摘完存～端部 1/4 残存	62
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	摘完存～端部 5/12 残存	63
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	摘完存～端部 1/8 残存	64
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ(つまみ)	—	—	摘 2/3 ～端部僅かに残存	65
	回転ナデ 回転ヘラ切り	回転ナデ・ナデ	—	—	天井部 1/3 ～端部僅かに残存	66
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	全体の 1/4 残存 歪	67
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/7 残存	68
	回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	—	—	全体の 1/4 残存 ヘラ記号 端部に自然釉	69

遺物 番号	Fig. No.	PL No.	器種	種別	遺構 番号	グリッド	層位	法量 (cm)			色調		胎土			
								口径	底径	器高	外面	内面				
70	9	6	蓋	須恵器	—	56	2	(13.8)	—	2.0	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 7.5YR6/1	1mm以下の砂粒・白色粒			
71			蓋	須恵器	—	55	2	(14.4)	—	(2.7)	灰白 7.5Y8/1	灰白 N8/	1mm以下の砂粒			
72			蓋	須恵器	—	65	1	(15.6)	—	(2.5)	灰白 7.5Y7/1	灰白 5Y7/1	1mm以下の砂粒・白色粒			
73			蓋	須恵器	—	55	2	(14.6)	—	(2.2)	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	1mm以下の砂粒・白色粒			
74			蓋	須恵器	—	54	2	(14.0)	—	1.6	灰白 N8/	灰白 N8/	1mm以下の砂粒			
75			蓋	須恵器	—	55	2	(15.8)	(14.0)	(2.1)	灰 10Y5/1	灰白 10Y8/1	1mm以下の砂粒・小石粒			
76			蓋	須恵器	—	55	2	(14.6)	11.8	1.9	灰 10Y6/1	灰 10Y6/1	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒			
77			蓋	須恵器	—	45	2	(16.2)	—	2.0	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
78			蓋	須恵器	—	55	2	(15.2)	(9.6)	(2.0)	灰白 N7/	灰白 10Y7/1	1mm以下の砂粒・白色粒			
79			蓋	須恵器	—	66	2	(15.0)	—	1.8	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒			
80			蓋	須恵器	—	66	2	(15.8)	(10.0)	1.6	灰白 5Y7/1	灰白 N8/	～1mm以下の砂粒 黒色粒			
81			蓋	須恵器	—	66	2	(13.8)	—	1.6	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
82			蓋	須恵器	—	55	2	13.6	5.4	1.2	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	～1mm以下の砂粒 白色粒・4 黒色粒			
83			蓋	須恵器	—	56	2	(16.8)	—	(1.2)	灰白 10Y7/1	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・小石粒			
84			7	7	坏 (高台付)	須恵器	—	56	2	—	(8.2)	(1.2)	灰 N6/	灰白 7.5Y7/1	1mm以下の砂粒・黒色粒	
85					坏 (高台付)	須恵器	—	56	2	(11.6)	(7.6)	4.0	灰白 N7/	灰 N6/	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒	
86	坏 (高台付)	須恵器			—	65	2	(13.2)	(8.3)	4.0	灰 N6/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
87	坏 (高台付)	須恵器			—	66	2	(13.6)	(8.8)	4.2	明褐灰 7.5YR7/2	褐灰 7.5YR6/2	1mm以下の砂粒・白色粒			
88	坏 (高台付)	須恵器			—	67	2	(11.5)	(6.9)	4.0	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
89	坏 (高台付)	須恵器			—	66	2	(11.5)	7.9	2.9	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	1mm以下の砂粒			
90	坏 (高台付)	須恵器			—	45	2	—	(7.2)	(3.3)	灰白 7.5Y7/1	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
91	坏 (高台付)	須恵器			—	56	2	—	7.9	(2.8)	灰 N5/	灰 N5/	1mm以下の砂粒・白色粒			
92	坏 (高台付)	須恵器			—	56	2	(13.8)	(9.0)	3.9	灰白 N/5 N/6	青灰 5B6/1	1mm以下の砂粒・白色粒			
93	不明 (高台付)	須恵器			—	55	2	—	(12.5)	(3.4)	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	1mm以下の砂粒・白色粒			
94	坏 (高台付)	須恵器			—	45	2	(12.4)	(6.7)	5.4	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR7/2	1mm以下の砂粒			
95	坏 (高台付)	須恵器			—	66	2	—	(8.6)	(3.8)	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
96	坏 (高台付)	須恵器			—	66	2	14.8	9.0	6.0	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
97	坏 (高台付)	須恵器			—	66	2	(15.4)	8.1	6.0	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒			
98	10	7	坏 (高台付)	須恵器	—	55	2	14.9	8.4	6.9	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
99			坏 (高台付)	須恵器	—	45	2	—	9.4	(3.7)	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	1mm以下の砂粒 白色粒			
100			坏	須恵器	—	66	2	(11.8)	(7.6)	4.6	灰白 5Y7/1	灰白 7.5Y8/1	1mm程度の砂粒・白色粒 黒色粒			
101			坏	須恵器	—	46	2	(11.6)	7.4	3.4	灰白 N7/	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒			
102			坏	須恵器	—	45	2	(12.6)	(7.8)	4.3	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	1mm以下の砂粒			
103			坏	須恵器	—	55	2	(13.8)	(8.2)	4.4	灰白 5Y7/1	灰白 N7/	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒			

Tab.5 遺物観察表

	調整				備考	遺物 番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/6 残存	70
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	—	—	端部 1/6 残存	71
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/8 残存	72
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	全体の 1/3 残存	73
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/4 残存	74
—	—	—	—	—	端部 1/6 残存 摩耗のため調整不明瞭	75
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	天井部完存～端部僅かに残存	76
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	全体の 1/10 残存	77
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/3 残存	78
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/4 残存	79
回転ナデ 回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	—	—	端部 1/3 残存	80
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/4 残存	81
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	ほぼ完形	82
回転ナデ 回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	—	—	端部 1/4 残存	83
—	—	ナデ	ナデ	—	底部 1/4 残存 調整摩耗	84
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 2/5 ～口縁部 1/4 残存	85
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 1/4 ～口縁部 1/6 残存	86
回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切り	ナデ	底部 2/5 ～口縁部 1/3 残存	87
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 1/5 ～口縁部 1/7 残存	88
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 5/6 ～口縁部僅か残存	89
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 2/5 残存	90
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部完存	91
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 2/5 ～口縁部 1/6 残存	92
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 1/6 残存	93
回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	—	底部 1/3 ～口縁部僅か残存 灰かぶり	94
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 1/3 残存	95
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部完存～口縁部 1/3 残存	96
回転ナデ	回転ナデ	ナデ	ナデ	—	底部完存～口縁部 1/8 残存 摩耗の為調整不明瞭	97
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部完存～口縁部 1/2 残存	98
回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	ナデ	—	底部 4/5 残存	99
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラケズリ後ナデ	ナデ	—	全体の 1/4 残存 煤付着	100
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 1/2 ～口縁部 1/6 残存	101
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	—	全体の 1/3 残存	102
回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	—	底部 1/2 ～口縁部 1/8 残存	103

遺物 番号	Fig. No.	PL No.	器種	種別	遺構 番号	グリッド	層位	法量 (cm)			色調		胎土	
								口径	底径	器高	外面	内面		
104	10	7	坏	須恵器	—	55	2	(11.6)	(7.0)	3.7	灰白 10YR8/1	灰 N6/	1 mm以下の砂粒・小石粒 角閃石	
105			坏	須恵器	—	56	2	12.4	7.6	4.5	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	1 mm以下の砂粒・白色粒	
106			坏	須恵器	—	55	2	—	7.6	2.7	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	1 mm以下の砂粒	
107			坏	須恵器	—	55	2	12.4	7.9	4.0	灰白 N7/	灰白 N7/	1 mm以下の砂粒・小石粒 白色粒	
108			坏	須恵器	—	45	2	—	(7.2)	(2.3)	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	1 mm以下の砂粒・白色粒	
109			坏	須恵器	—	65	2	(11.7)	(7.0)	4.8	灰白 7.5Y7/1	灰白 5Y7/1	1 mm以下の砂粒・白色粒	
110			坏	須恵器	—	46	2	(12.9)	(7.4)	3.6	灰白 2.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	1 mm以下の砂粒・白色粒 黑色粒	
111			坏	須恵器	—	65	2	(11.0)	(7.4)	3.6	灰白 10Y7/1	灰 10Y6/1	1 mm以下の砂粒・白色粒 黑色粒	
112			坏	須恵器	—	55	2	(12.2)	(8.0)	4.0	灰白 N7/	灰白 N7/	1 mm以下の砂粒・白色粒	
113			坏	須恵器	—	54	2	(13.8)	(9.0)	4.1	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	1 mm以下の砂粒・白色粒	
114			坏	須恵器	—	56	2	(13.6)	(7.2)	3.3	灰白 N7/	灰白 N7/	1 mm以下の砂粒・白色粒 黑色粒	
115			坏	須恵器	—	55	2	(13.2)	(8.4)	3.9	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5YR8/1	混入物はない	
116			坏	須恵器	—	66	2	(13.8)	(9.8)	3.8	灰白 2.5Y8/1	灰白 N8/	白色粒・1 mm以下の砂粒	
117			高坏	須恵器	—	65	2	—	—	(7.3)	灰 N/6	灰白 N7/	1 mm以下の砂粒	
118			高坏	須恵器	—	64	2	—	—	(10.3)	灰白 N7/	灰白 N7/	1 mm以下の砂粒	
119			高坏	須恵器	—	65	2	—	—	(6.7)	灰 N6/	灰 N6/	1 mm以下の砂粒	
120	高坏	須恵器	—	56	2	—	—	(5.7)	暗灰 N3/	灰白 N7/	1 mm以下の砂粒			
121	11	8	皿	須恵器		55	2	(14.2)	11.1	2.0	橙 2.5YR7/8	橙 5YR7/6	1 mm以下の砂粒	
122			皿	須恵器		54	2	(13.4)	(10.9)	1.6	赤灰 2.5YR5/1	褐灰 7.5YR4/1	1 mm以下の砂粒・白色粒	
123			皿	須恵器		66	2	(14.6)	(11.4)	1.7	灰白 N7/	灰 N6/	1 mm以上の砂粒・白色粒	
124			皿	須恵器		45	2	(13.6)	11.4	2.0	灰白 N7/	灰 N6/	~ 1 mm程度の砂粒 白色粒	
125			皿	須恵器		55	2	(15.4)	(12.0)	1.9	黄坏 2.5Y6/1	灰白 5Y7/1	1 mm以下の砂粒・白色粒	
126			皿	須恵器		55	2	14.2	12.0	2.0	灰 N6/	灰 N6/	1 mm以下の砂粒・白色粒	
127			皿	須恵器		55	2	(15.8)	(12.6)	1.5	褐灰 10YR5/1	灰 N6/	1 mm以下の砂粒・白色粒	
128			皿	須恵器		55	2	(17.6)	(14.2)	1.9	灰 N6/	灰 N6/	1 mm以下の砂粒・小石粒 白色粒	
129			盤	須恵器		56	2	—	(14.8)	(1.8)	褐灰 10YR5/1	灰 N/4	1 mm以下の砂粒・白色粒	
130			5	甕	須恵器		65	2	—	—	(5.4)	灰 N6/	青灰 10BG6/1	1 mm以下の砂粒・白色粒
131	8	碗	青磁		47	2	(16.0)	—	(3.3)	裏葉色 3G7.0/2.0	ブルーウォッシュ 3PB8.5/1.0	精		
132		皿	青磁		54	2	(13.2)	—	(2.2)	モスグリーン 3G5.5/5.5	パールホワイ N8.5	精		
133		碗	青磁		55	2	—	—	(1.5)	オリーブグリーン 3GY3.5/5.0	シルバーグレ N7.5	精		
134		碗	青磁		64	2	—	(6.0)	(2.1)	ろくしょう 3G5.0/5.0	灰 N6/	精・白色粒		
135		碗	白磁		55	2	(6.4)	—	(2.0)	リリーホワイト 3G9.0/1.0	アイボリーホワイ 5Y9.0/1.0	精		
136		碗	白磁		55	2	—	(5.0)	(1.7)	リリーホワイト 3G9.0/1.0	ブルーウォッシュ 3PB8.5/1.0	精		
137		碗	白磁		66	2	—	(2.8)	(1.9)	白ゆり色 8Y9.0/2.0	アイボリーホワイ 5Y9.0/1.0	精		

Tab. 6 遺物観察表

	調整				備考	遺物 番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	回転ナデ	回転ナデ (摩耗)	ヘラ切り 摩耗のため不明瞭	ナデ	全体の 1/4 残存	104
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 1/2 残存	105
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 3/4 残存	106
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部完存～口縁部 2/5 残存 煤付着	107
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 3/5 残存	108
	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	底部 1/4 ～口縁部 1/8 残存	109
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 2/5 ～口縁部 1/4 残存	110
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 1/4 ～口縁部僅か残存	111
	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り離し後ナデ	ナデ	全体の 1/3 残存	112
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 1/4 残存	113
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 1/3 ～口縁部 1/8 残存	114
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 1/6 残存	115
	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	全体の 1/4 残存 外底面は摩耗の為調整不明瞭	116
	回転ナデ	回転ナデ	—	—	脚 1/4 残存 透孔 4 復元 しぼり痕	117
	回転ナデ	工具ナデ・回転ナデ	—	—	脚 1/3 残存 透孔上下各 2 残存 しぼり痕	118
	回転ナデ	回転ナデ	—	—	脚 1/4 残存 すかし 2 力所確認 透孔上下各 4 復元	119
	回転ナデ	回転ナデ	—	—	脚 1/7 残存	120
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	底部 1/2 ～口縁部 1/4 残存 摩耗	121
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 3/5 ～口縁部 2/5 残存	122
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 2/5 残存	123
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 1/2 残存	124
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 1/3 残存	125
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部完存～口縁部 3/4 残存	126
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	全体の 1/4 残存	127
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 1/6 ～口縁部僅か残存	128
	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部 1/7 残存	129
	叩き	叩き	—	—	頸部破片	130
	回転ナデ・施釉	回転ナデ・施釉	—	—	口縁部僅か残存	131
	回転ナデ・施釉	回転ナデ・施釉	—	—	口縁部 1/8 残存	132
	施釉	施釉	—	—	底部 1/6 残存	133
	回転ナデ・施釉	回転ナデ・施釉	ヘラケズリ出し	回転ナデ・施釉	底部 1/6 残存	134
	施釉	施釉	—	—	口縁部 1/7 残存	135
	施釉	施釉	畳付き釉剥ぎ	—	重ね焼き痕 底部 1/6 残存	136
	施釉	施釉	—	—	底部 1/2 残存 削り出し高台	137

Tab. 7 遺物観察表

遺物 番号	Fig. No	PL No	遺構 番号	種類	グリッド	層位	法量				色調	胎土	備考
							全長 (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
26	6		SD1	土錘	56	埋3	(2.6)	1.3	0.35	(4.0)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒	ほぼ完形 欠損あり
138			—	土錘	66	2	(2.2)	1.0	0.4	(1.6)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・白色粒	ほぼ完形 欠損あり
139			—	土錘	66	2	(3.0)	(1.1)	(0.4)	(2.0)	にぶい黄橙 10YR7/4	1mm以下の砂粒・白色粒	ほぼ完形 欠損あり
140			—	土錘	66	2	3.35	1.1	(0.3)	(1.9)	明黄褐 10YR6/6	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒	1/2 残存
141			—	土錘	45	2	(3.4)	1.0	0.3	(2.0)	浅黄橙 10YR8/3	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒	2/3 残存
142			—	土錘	66	2	3.6	1.1	0.3	3.2	浅黄橙 10YR8/3	1mm以下の砂粒・赤色粒 白色粒	完形
143			—	土錘	66	2	(3.85)	1.1	0.4	(3.4)	橙 7.5YR7/6	～1mmの砂粒・小石粒 白色粒	ほぼ完形 欠損あり
144			—	土錘	45	2	3.55	1.05	0.4	(3.7)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒	ほぼ完形 欠損あり
145			—	土錘	45	2	(4.05)	1.05	0.3	(3.2)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・黒色粒	ほぼ完形 欠損あり
146			—	土錘	55	2	4.3	1.4	0.4	6.6	にぶい橙 7.5YR7/4	1mm以下の砂粒・白色粒 雲母	完形
147			—	土錘	55	2	(3.1)	1.35	0.5	(4.6)	にぶい黄橙 10YR7/3	1mm以下の砂粒・白色粒 角閃石	ほぼ完形 欠損あり
148			—	土錘	66	2	(4.3)	1.1	0.3	(4.2)	浅黄橙 10YR8/3	1mm以下の砂粒・赤色粒	ほぼ完形 欠損あり
149			—	土錘	56	2	(4.35)	1.15	0.4	(5.2)	にぶい黄橙 10YR7/4	1mm以下の砂粒	ほぼ完形 欠損あり
150			—	土錘	56	2	(4.2)	1.2	0.45	(4.7)	にぶい黄橙 10YR7/4	1mm以下の砂粒・白色粒	ほぼ完形 欠損あり
151			—	土錘	66	2	4.95	1.35	0.5	7.8	浅黄橙 10YR8/3	1mm以下の砂粒・赤色粒	完形
152			—	土錘	45	2	4.2	1.5	0.45	(7.4)	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒	ほぼ完形 欠損あり
153			—	土錘	56	2	(3.15)	(1.4)	0.5	(5.1)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒	2/3 残存
154	12	9	—	土錘	66	2	4.15	1.8	0.7	(11.0)	にぶい黄橙 10YR7/3	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒	ほぼ完形 欠損あり
155			—	土錘	45	2	4.8	1.6	0.45	(11.6)	にぶい褐 7.5YR5/4	1mm以下の砂粒・白色粒 黒色粒・角閃石	ほぼ完形 欠損あり
156			—	土錘	56	2	(6.1)	1.45	0.4	(9.9)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・黒色粒	ほぼ完形 欠損あり
157			—	土錘	56	2	4.7	1.8	0.55	(12.8)	にぶい橙 7.5YR7/4	1mm以下の砂粒・白色粒 角閃石	ほぼ完形 欠損あり
158			—	土錘	57	2	(3.6)	1.7	0.7	(12.0)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・小石粒 黒色粒	ほぼ完形 欠損あり
159			—	土錘	57	2	(4.6)	1.85	0.8	(14.1)	橙 7.5YR6/6	1mm以下の砂粒・小石粒	ほぼ完形 欠損あり
160			—	土錘	57	2	(4.3)	2.0	0.7	(14.6)	橙 5YR6/6	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・赤色粒	ほぼ完形 欠損あり
161			—	土錘	57	2	4.5	2.1	0.8	(14.3)	橙 5YR7/6	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・黒色粒	ほぼ完形 欠損あり
162			—	土錘	45	2	5.45	2.0	0.75	17.6	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・赤色粒 黒色粒	完形
163			—	土錘	57	2	(3.65)	2.1	0.8	(14.1)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・黒色粒 赤色粒・雲母	4/5 残存
164			—	土錘	66	2	5.15	1.95	0.8	16.6	橙 7.5YR7/6	1mm以下の砂粒・小石粒 白色粒・黒色粒	完形
165			—	土錘	57	2	(3.2)	2.3	0.7	(12.8)	浅黄橙 10YR8/4	1mm以下の砂粒・赤褐色粒 黒色粒	1/2 残存
166			—	土錘	57	2	5.15	2.15	0.5	22.4	浅黄橙 7.5YR8/4	1mm以下の砂粒・白色粒 角閃石	完形
167			—	土錘	66	2	(5.5)	2.35	0.75	(24.8)	灰白 2.5Y8/2	1mm以下の砂粒・赤色粒 黒色粒・角閃石	ほぼ完形 欠損あり
168			—	土錘	66	2	(5.9)	2.3	0.8	(28.4)	淡黄 2.5Y8/3	1mm以下の砂粒・黒色粒 角閃石・雲母	ほぼ完形 欠損あり
169		5	—	紡錘車	54	1	(5.95)	(3.5)	(0.75)	(20.9)	黄灰 2.5Y4/1 灰白 N7/	1mm以下の砂粒・黒色粒	1/2 残存 須恵器転用

第4章 総括

1 検出遺構について

今回の清水町遺跡では、溝（SD1）を1条確認した。本遺構は調査と本整理のなかでの遺構の検討の結果、掘り込みの層位及び出土遺物等から近現代に位置付けられると判断した。

その結果を基に、八代市内における近接地の歴史を概観すると、本遺跡の北側に、かつて八代駅から日本セメント八代工場専用線（1890～1989）が引き込まれ、調査で確認した溝（SD1）がその線路跡に平行に位置していることを古地図等で確認した。

このことを調査結果と照らし合わせ、遺構の掘り込み層位と出土遺物の年代等を考慮すると、線路に平行し掘り込まれた排水等を目的として設置された溝である可能性が高い。なお、現在の引き込み線跡は、調査区北側に八代市道の歩道として痕跡を留めている。

2 出土遺物について

当遺跡からの遺物の出土は、基本土層中の2層を中心とし、土師器、須恵器等が多い。その大半は、8世紀後半から9世紀半ばまでの時期に比定され、八代市内における古代集落及び官衙群が増加する時期と重なる。

また、数は少ないが3層から、古墳時代中期～後期の土器が出土し、併せて管状土錘も出土している。八代市が球磨川やその他小規模な河川の河口部に位置し、遠浅という地形から干潟が発達した地域でもあることから、河口部もしくは海浜部で刺し網等の漁具として使用された可能性が高い。

2・3層から出土した遺物はそれぞれの層の年代を示す良好な資料と考えられるが、当遺跡では古代の遺構が見られず、包含される遺物の出土状況に人為的な廃棄や生活痕跡が認められないことと併せ、遺物表面の摩耗等が観察できることから、二次的な作用が加わったものと判断され、使用当時の原位置を示すものではないと考えられる。周辺に形成された集落遺跡から自然流路の作用により流れ込んだものであろう。しかし、これらの遺物は隣接する洗切遺跡や同市宮地町で調査事例のある、宮地観行寺遺跡及び宮地小畑遺跡を含め、古代八代地域に営まれた当時の人々の生活を類推させる貴重な資料であり、古代の八代を考える上で重要な資料である。

3 清水町遺跡の性格について

八代地域に持ち込まれた古代の須恵器及び土師器については、宇城地域の古窯跡群との関係が宮地観行寺遺跡及び宮地小畑遺跡を始めとする発掘調査等で指摘されているところである。これら宇城産の特徴を有する須恵器群や、回転台を利用した土師器群については、官衙遺構を推定させる硯、布目瓦などと共伴することが確認され、大型掘立柱建物群にも伴うことも調査事例から知られている。

出土遺物は本報告でも指摘されているが、宇城産の須恵器を中心としたもので調査結果から、概ね、8世紀後半から9世紀前半期の遺物が主体で、宮地観行寺遺跡、宮地小畑遺跡及び洗切遺跡出土の遺物と時期、器種構成とも合致する。

本遺跡周辺は、背後に急峻な地形を持つ九州山地の末端に位置し、県内でも急流として知られる球磨川の河口部に位置し、洪水被害が多い地域であり近年の堤防築堤までは、球磨川、水無川

の氾濫による水害の記録が多数残されている。

古代に遡ると、前述した『続日本紀』には天平16年(744)5月に八代、天草、葦北の三郡の官舎とその周辺が洪水により甚大な被害を受けた記録が残っており、また『日本三代実録』にも、貞観11年(869)7月に肥後国で暴風雨、洪水により官舎や民家が被害を受け、多くの死者が出たという記録がある。

これらの洪水に関する記録の多さが当該地域の古代から近世までの様相を如実に表しており、このような被害が八代地域の集落形成に影響を及ぼしていたことは本調査においても遺物の出土状況等で裏付けられている。

この調査結果を踏まえ、当該遺跡は、洗切遺跡等の集落縁辺部に位置し、遺物のみを包含する地域に所在する遺跡である可能性が高い。

総括の執筆において八代市立博物館未来の森ミュージアム、鳥津亮二氏に有益な資料提供、御助言をいただきました。末筆ながら厚く御礼申し上げます。

引用・参考文献

- 『洗切遺跡調査報告書』八代市洗切遺跡調査団 1982
- 『宮地小畑遺跡・宮地観行寺遺跡』「熊本県文化財調査報告書第235集」2005、2006
- 『下江中島遺跡・上日置女夫木遺跡』「熊本県文化財調査報告書第278集」2013
- 『考古資料大観 1 弥生・古墳時代 土器 I』武松純一・石川日出志監修 小学館 2003
- 『須恵器集成図録 第5巻 西日本編』船山良一・松本敏三著 雄山閣出版 1996
- 『新宇土市史 資料編第2巻』宇土市史編纂委員会 2002
- 『荒尾市史 通史編』荒尾市史編集委員会 2012
- 『八代地方の災害史年表』名和達夫 1997
- 『発掘調査のてびき』文化庁文化財記念物課監修 同成社 2010

写 真 図 版
P L A T E

写真機材

《遺構》

カメラ : NIKON F3

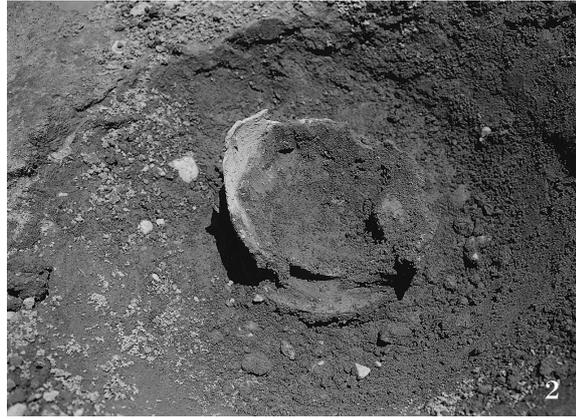
フィルム : FUJI RDP III

《遺物》

カメラ : SINAR P2・TOYO VIEW GX

フィルム : FUJIFILM PROVIA100F

ACROS 100

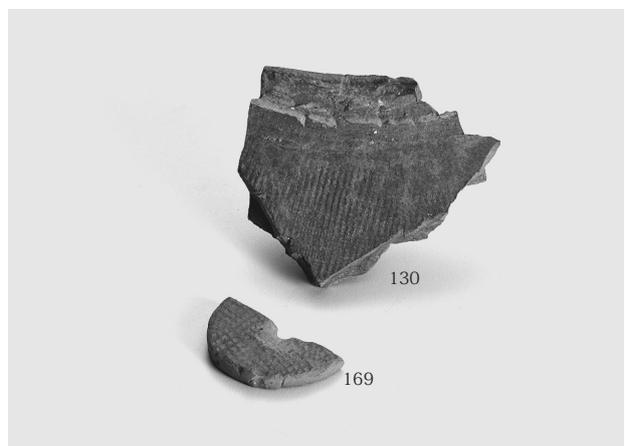
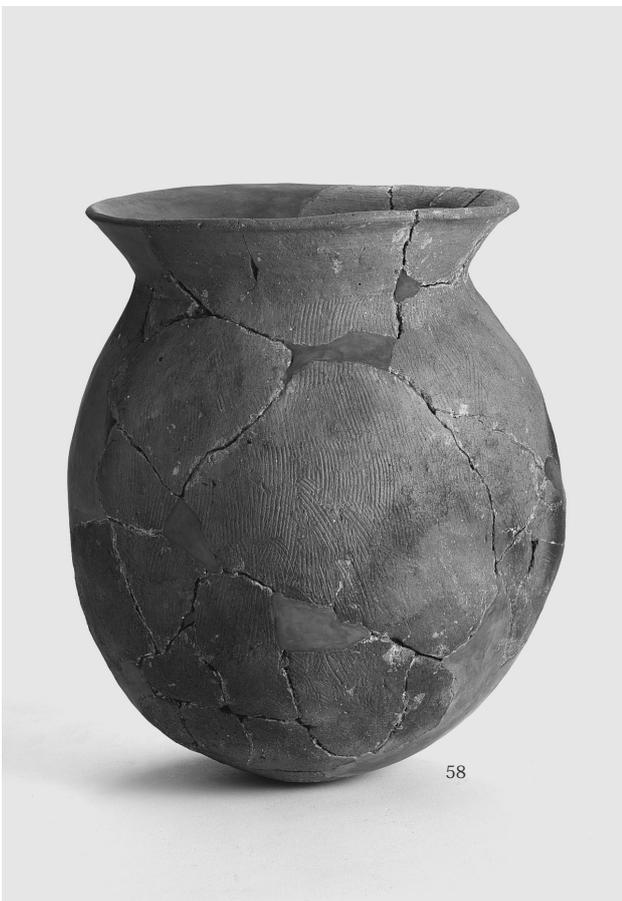


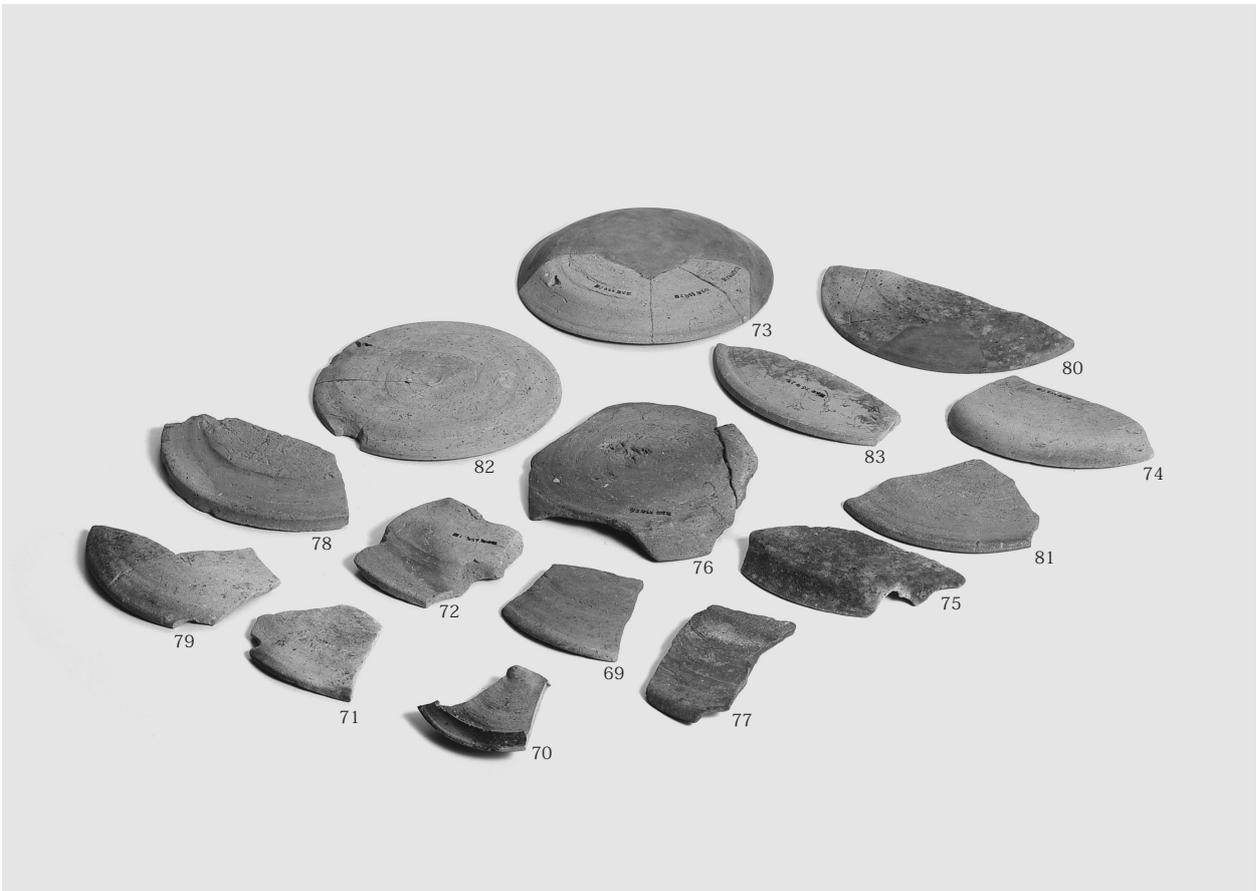
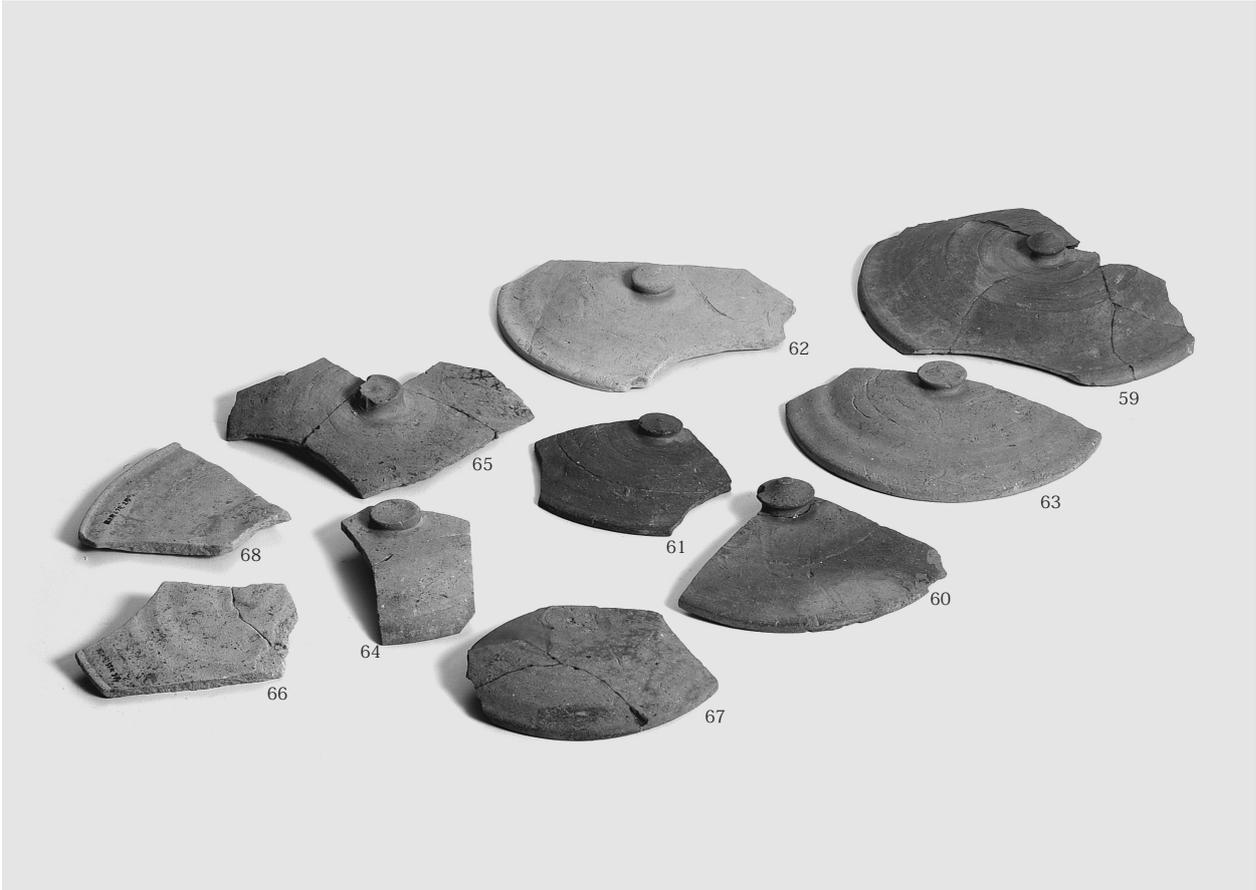
1. 調査区西壁断面
3. 2層完掘状況 東より
5. 溝SD1形成層序 東壁
7. 溝SD1完掘状況 西より

2. 56Grid 遺物出土状況
4. 溝SD1検出状況 西より
6. 溝SD1形成層序 西壁
8. 調査区完掘状況 南より



1. 溝SD1出土遺物
2. 調査区出土遺物

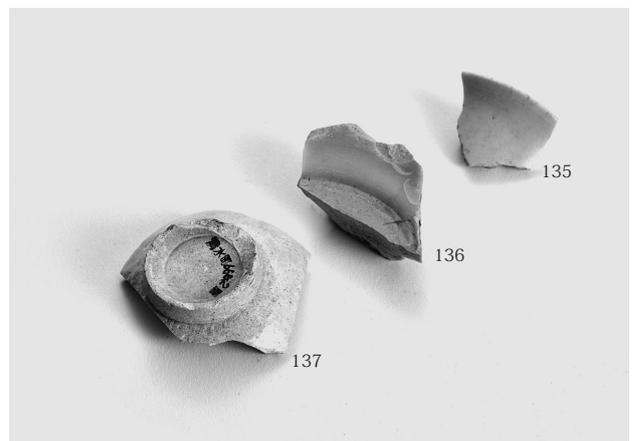
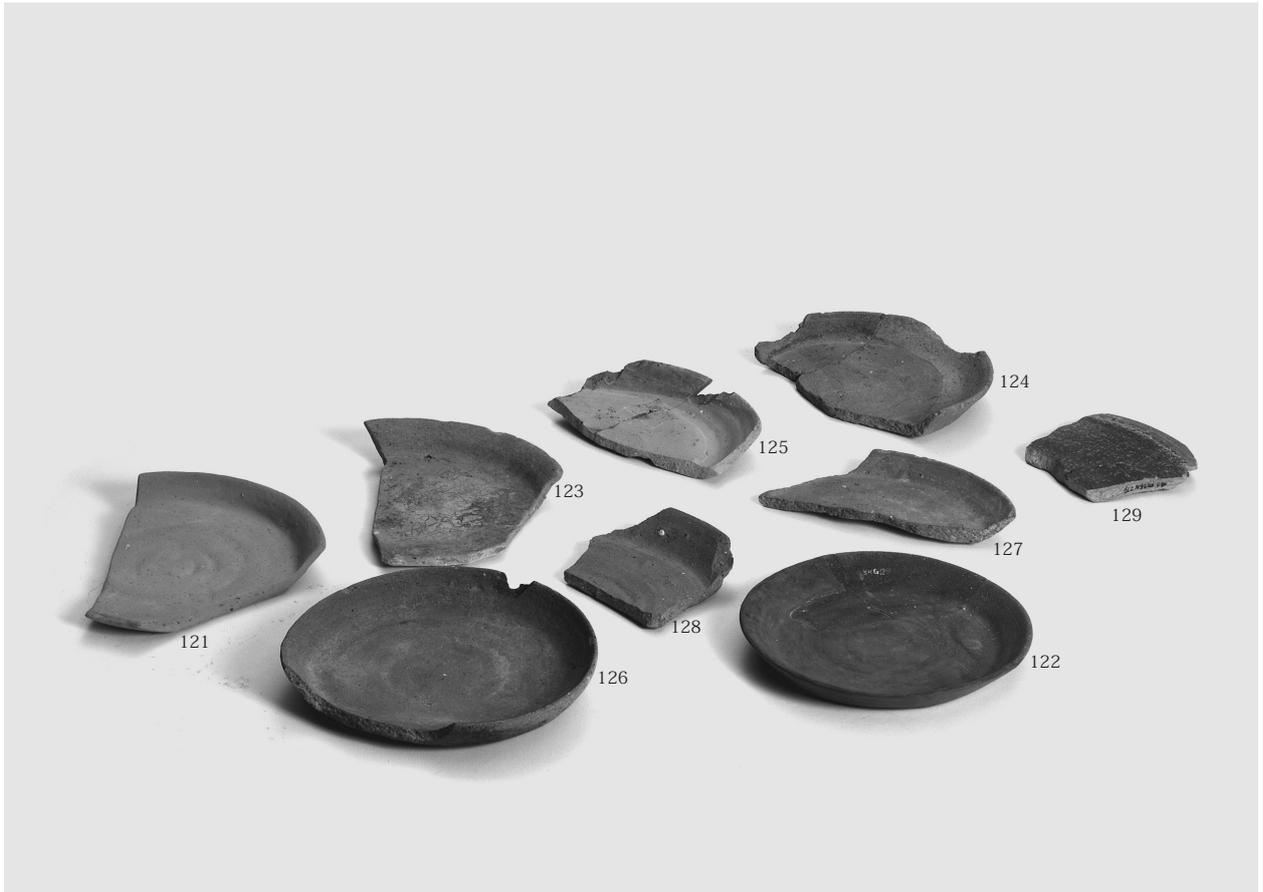




調査区出土遺物



調査区出土遺物



調査区出土遺物



調査区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しみずまちいせき
書名	清水町遺跡
副書名	八代公共職業安定所建て替えに係る埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第324集
編著者	赤星和宏
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 TEL 096-333-2706
発行年月日	2017年3月31日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室 〒861-4215 熊本市南区城南町沈目1667 TEL 0964-28-4933

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		基準点	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号						
しみずまちいせき 清水町遺跡	くまもとけんやつしろし 熊本県八代市 しみずまち 清水町	202	248	T-1	32° 30' 23.85625"	130° 36' 46.22986"	2015.07.01 ～ 2015.10.31	750 m ²	八代公共職業安定所建て替え工事
				T-2	32° 30' 23.65118"	130° 36' 47.45968"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
清水町遺跡	包蔵地	古代 中世 近世	溝状遺構	土師器・須恵器 青磁・白磁	2層から古代（奈良時代～平安時代）の土師器、須恵器が多数出土した。3層から古墳時代後期の甕も出土している。

要約	清水町遺跡周辺は、洗切遺跡との関連が強く、地方官衙か寺院に所属した人々の生活跡が広がっていると思われた。出土遺物は、当時の生活に活用されたものが多かったが、古代の遺構は検出できなかった。しかし、土師器、須恵器、土錘等の豊富な出土遺物は、古代八代の生活を研究する上で有用な資料である。
----	---

本書の仕様

- 判型 A4判
- 頁数 56頁
- 組版 13級 MS明朝
Adobe In DesignCS5.5(for Windows)
- 印刷 オフセット
- 判型 A4判
- 製版 本誌のモノクロ及びカラー印刷写真はすべてスクリーン線数200線で製版
- 用紙 表紙：アートポスト紙 220kg
見返し：上質紙 110kg
大扉・序文・目次等・本文・抄録・奥付：上質紙 110kg
巻頭カラー・図版：特アートSA金藤4/6 135kg
- 製本 糸かがり綴じ
- 表紙加工 PP(ポリプロピレン)貼り

2017年3月17日 印刷
2017年3月31日 発行

熊本県文化財調査報告 第324集

清水町遺跡

著作権所有 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
発行者 熊本県教育委員会

印刷所 熊本県熊本市北区龍田弓削1丁目4番12号
ホープ印刷株式会社

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第324集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：清水町遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2019年1月15日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>